

No. 59 >>> Contents

●トピックス

- 繭からの糸作りから見えるもの
..... 西予市野村シルク博物館 染織講座第 22 期生 若林 萌———— ①
- 純国産真綿を使った製品作り
..... 西川産業株式会社 商品第 1 部 ふとん 2 課 課長 和田英樹———— ③
- 絹織物産地の現状について
..... 一般社団法人日本絹人織織物工業会 専務理事 上野千秋———— ⑤
- きものサミット in 京都 2018 を開催 ～わっしょい わっしょい 京都でわっしょい～
全国の川上・川中・川下の和装業界関係者約 400 人が京都に集結！
..... きものサミット in 京都 2018 開催委員会———— ⑦
- 天蚕を飼ってみました in 有楽町
..... 一般財団法人大日本蚕糸会 業務部課長 佐藤良介———— ⑩

●蚕糸・絹業史のひとコマ

- 葉に用いた天蚕、蚕糸・絹業関係の民謡
..... シルク博物館 元部長 小泉勝夫———— ⑫

●研究・技術情報

- 消毒の作法 —その 2 蚕期終了後の消毒作業の重要性—
..... 一般財団法人大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 主任研究員 野澤瑞佳———— ⑰
- 夢のようだった蚕糸科学研究所での研修
..... 韓国伝統文化大学 伝統美術工芸学科 博士課程 崔 貞任———— ⑳

●蚕糸・絹業団体情報

- 伝統継承施設「西予市野村シルク博物館」
..... 西予市野村シルク博物館 館長 亀崎壽治———— ㉔

●イベント情報

●一般財団法人大日本蚕糸会から

- 平成 30 年度第 2 次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ————— ㉙
- 純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 (H30- 第 2 次) ————— ㉚
- 一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌 ————— ㉛

●蚕糸絹関係博物館一覧

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

●統計資料 (統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

繭からの糸作りから見えてくるもの

西予市野村シルク博物館

染織講座第 22 期生 若林 もゆ 萌

野村シルク博物館 染織講座について

野村シルク博物館では、西予市内で生産した繭を製糸し、出荷する製糸部門のほか、繭からの糸作り、植物染料による染め、高機による手織りの技法を教えている染織講座があります。

この染織講座を受講することを決めた一番の理由は糸作りの技法を学ぶことでした。私は以前、2年ほど教室で習い、糸から着物や帯を製作してきました。織物について習う中で織の技法や組織について勉強すれば理解でき、自分で組織図を作ってみたりと創作の幅が広がりましたが、糸に関してはどこをどう勉強していいか、手掛かりがつかめずにいました。そこで、目指す厚さ、風合いに最適な糸を選択するための絹糸についての基礎知識や、糸や絹織物を見る目を養いたいと思い、野村シルク博物館にて染織講座を受講することにしました。

糸作りから見えてくるもの

糸作りは煮繭した繭から糸を引き出し、木杵に巻き取っていく座繰りという方法で行います。この座繰りの作業の中で、蚕が1,000 m以上ものきれいな1本の糸を吐い



第 22 期染織講座開講式

ていること、その1本の糸をそのままとっていくことで生糸になることを体を使って理解することができました。蚕が吐いた糸をどれだけ痛めず、無理なくそのまま引いていけるかを意識しました。蚕が良く育ち、きれいに糸を吐いてくれたかは、繭の品質と糸の引きやすさにつながるということに気づきました。

また、繭のすべてがきれいな生糸になるわけではありません。

一番外側のきびそと言われる硬い糸や玉繭、虫食い、内部が汚れている繭、糸終わりの細かい糸など、このような繭は屑繭と呼ばれ、繰糸する間に取り除かれます。

1反の着物分の生糸を繰糸するために出る屑繭は想像していたよりも多く、大きなバケツ一杯ほどになりました。この屑繭を

生かして紬糸が作られることもあります。大量の屑繭を見ていると、苦勞して育てた繭を何とかして糸にしたいと紬糸にした昔の人の気持ちが良くわかります。また、小さい繭や生育が悪く形がいびつな繭は糸を引きにくく、良質な生糸をつくるためには、蚕を最適な環境で育て、最適な繭の形状に育てることの大切さを理解しました。



座繰り作業

糸を生かすこと

座繰りによって繰糸した糸は合撚糸をすることで着物が織れる糸になります。撚糸は糸を扱いやすくするためには必須の作業です。この撚りの回転数によって織り上がる布の光沢感、柔らかさが決まっています。光沢感や柔らかさを求めて撚りを甘くすればその後の工程で扱いにくくなるので、最適な回転数にとどめます。品質と、耐久性や扱いやすさの間の最適値を考えていく、求めていくことはものづくりの常であり、基本だと改めて感じました。

繰糸した生糸は表面のセリシンにより張りがあり、硬い状態です。ほとんどの先染めの絹織物は絹特有の柔らかさ、光沢を得るため

に、精練をして表面のセリシンを取り除いてから製織しますが、江戸時代の絹の小袖などを見ると、経糸は精練をせず、緯糸のみ精練をされており、独特の光沢感と風合いがありました。実際に機で織っていく時に、摩擦によって糸が切れてしまう可能性を考えると、糊付けしない代わりにセリシンを残し、表面が保護された状態で織る方法が自然に生み出されたのだらうと思います。

これまでの作業の中で糸に対しての考えが少し変わりました。今までは織り上がりの完成品を想像し、そこから適した糸や織り方を考え、そのためにさまざまな種類の糸を知りたい、知らなければ織れないと思っていましたが、それよりもこの糸を生かすための作り方、織り方で布を製作したいという思いが強くなりました。

人々が絹の特質を理解し、生かしながら目指す織物に近づけるため様々な技術が生まれたと実感しています。

繭から絹織物を作ってきた長い歴史の只中に自分も糸を作り、織っていることを深く感じながらこれからも製作を続けていきたいと思っています。



染色後の糸さばき

純国産真綿を使った製品作り

西川産業株式会社

商品第1部 ふとん2課

課長 和田英樹

弊社は1566年近江八幡で創業し、以来452年の長きにわたり商売を続けさせて頂いております。当時は、蚊帳、畳表、弓などを販売し、明治時代よりふとんを取り扱い現在に至ります。

^{いにしえ}古よりふとんの最高級品として真綿ふとんは、ごく一部のふとん屋さんが細々と扱っておりましたが、繭の大部分が生糸や和装用に加工されるため、寝具用として加工され流通販売されることはほとんどありませんでした。戦前、戦後を通じて、ふとんわたは、綿わたが主流でした。高度成長期を境にポリエステル素材の技術革新が進み、扱いやすいポリエステルふとんわたが台頭し、大量生産・大量販売の時期を迎えました。

1980年代に入ると経済と国民生活は成熟し、欧米諸国より入ってきた高品質な羽毛ふとんブームが巻き起こり、健康志向の高まりも相まって、羽毛がふとんの詰め物の主流になりました。

そのような背景の中、約20年前に未来の寝具の方向性を考えた際、これからの寝具に求められるキーワードは、「眠る為の道具」から「健康」になるであろうと判断し、



入金真綿

より良く機能性に優れた素材、手法の追求に着手しました。

そこで着目したのが絹でした。吸放湿性に富み、たんぱく質が主成分のため肌に優しい天然の高機能素材であることから素材収集に取り掛かりました。絹の生地は各方面から入手できましたが、絹のふとんわたの開発が滞っていたところ、福島県の協力工場の方より、福島県伊達市の関根商店様をご紹介頂き、その運命的な出会いから真綿ふとんの新規開発が大きく進展していきました。

「入金真綿」は、福島県産の最高級手挽き真綿です。産地は、福島県伊達郡保原町を中心とする一帯で、慶長年間に製法が考案され、農家の副業として発展しました。名前の由来は、形が昔の財布に似ていると

いう説と、貴重品として扱われ、前金や現金取引ですぐに入金されたからという説があります。繭から、練り→すすぎ→のぼし→乾燥・結束の工程を経ますが、のぼしの段階で、「袋真綿」にするのは、保原町だけです。その「袋真綿」を使用し、二人で挽きのぼし、ふとんわたに成形しています。全ての工程を手作業で行うことにより、独特の風合いを備えています。職人技で生み出される価値観もさることながら、絹の持つ機能と掛け心地、肌触りを併せ持つ「入金真綿ふとん」は、日本の四季に最適なふとんといっても過言ではありません。この「入金真綿ふとん」の開発に至るまで、弊社とともに様々な思考錯誤を重ねご対応いただいた関根商店様のご尽力に対し、改めて感謝申し上げたいと思います。

日本の農家の高齢化に伴い、養蚕農家の減少と収繭量の減少に危機感を感じ、国産真綿ふとんの存続を図る為に、福島県伊達地方養蚕農家 15 戸、JA ふくしま未来様、

関根商店様等々の協力を得て、「ふくしまみらいシルクの会」提携グループをつくり活動をしております。当グループでは、真に価値のある高品質真綿ふとんを広く消費者の皆様にお届けできるよう、年間販売計画に基づく情報交換会や、繭生産量の打ち合わせ、高品質繭の計画生産等について協議し、永続的で発展性のあるグループ運営を目指しております。

現在、「入金真綿ふとん」は、全国の百貨店、専門店にて販売されるだけでなく、交通機関やホテル旅館などにも採用されております。2020年東京オリンピックの開催に向け、世界中の多くの方が日本に訪問される機会に改めて日本のモノづくりの価値を伝えるとともに、「入金真綿ふとん」を通じて「心地良く健康的な眠り」を日本だけでなく世界中の人々にお届けしたいという思いで日々活動をしていきたいと考えております。



真綿の手挽き作業

絹織物産地の現状について

一般社団法人日本絹人織織物工業会

専務理事 上野千秋

絹織物産地では、原料である中国の生糸価格が史上最高値となる中で、現在でも高値安定で推移しており、機業はコスト上昇分の価格転嫁の対応におわれています。

また、依然として労働者の高齢化・後継者不足であり、今後の生産量の回復が見通せないのが実情であります。

特に和装業界においては、若い人でもきものに興味があるのに値段が高くて買えないなどの意見もあり、消費者にとって良いものを適正な価格で買える業界にする必要があると考えております。

昨年5月に「和装振興協議会」（経済産業省主催）が取り纏めた、和装の持続的発展のために和装業界が自主的に実施することが望ましいとされる「和装業界の商慣行に関する指針」を確実なものにして行きたいと考えております。

今回は、絹織物産地の代表的な産地である西陣織産地の近況や業界の発展に向けた取り組みをご紹介します。

1. 生産概況

平成29年の西陣織の総出荷額は前年より大幅に伸長したが、これは大手室内装飾織物メーカーの業績改善によるものであり、産地の主力商品である帯地の生産高は引き続き停滞しジリ貧感が続いております。

本年、年初の帯地の出荷は数量、金額ともに依然としてマイナス基調が続き、しかも荷動きは中高級品が軸となっており価格水準はやや低下しております。他方、きもの地については前年より微増であり、お召着尺や男物きものなどに復調気配が感じられます。

2. 商品動向等

手織商品など高額品や高級フォーマル商品は苦戦模様で、差別化商品を軸にきものにあったカジュアル型商品に受注は移動し、そういった分野は顕著に推移しております。

また、低価格を売り物にしたプロパー商品は価格競争が総じて厳しい状況にあります。

生糸価格の高値安定で下落気配はなく、特に原価率の高いネクタイでは深刻な課題となっておりますが、ネクタイでは、ここへ来て西陣ブランドの復活見直しが進展し、市場好転へのサインと見る向きも現れて来ています。

帯地、金襴など伝統的市場をベースとする分野では、長期に及ぶジリ貧市況から脱却するために、炭素素材など機能性素材の技術開発、消費財から生産財まで幅広い新分野での市場開拓などの取り組みを行う企業が増えており、他産業分野との連携が確実に広まっています。

また、若手経営者によるグループ展なども開催され成果を上げつつあります。

3. 業界の発展に向けて

＜商慣行是正の取り組み＞

昨年5月に公表された「和装業界の商慣行に関する指針」の実現に向けて書面契約の推進を最優先課題とし、印紙税200円で契約できるモデル取引基本契約書を作成、更にその具体化に向けて西陣産地問屋協同組合と京都織物卸商業組合の両組合と西陣織工業組合間で書面契約推進の覚書を締結しました。

業界における商慣行の是正こそが産地生産機能の維持及び消費者の信頼回復への不可欠かつ最も効果的な対応と位置づけ、9月5日に開催された「きものサミット in 京都」などを通じて西陣での取り組みを全国産地に周知・浸透を図っております。

＜地域組合化の推進＞

西陣産地の縮小とともに西陣地域の地盤沈下が進み、地域コミュニティーが弱体化するなど地域活力が大きく低下してきております。

一方では、西陣織の高度な意匠と技を支えている数多くの関連分業工程の技術者・職人の高齢化、後継者不足が表面化し、近い将来の産地そのものの存続自体が危ぶまれております。

西陣織工業組合では、「商工組合から地域



地域各界の有識者60人による「西陣有識者会議」の発足

組合への転換」をスローガンに関連工業や職人を含めたオール西陣織の組合づくりと振興事業の再構築、文化、経済、教育、観光など地域のあらゆる資源と一体になり地域ブランディングの推進を決定しました。

＜きものファンづくり＞

西陣織工業組合（西陣織会館）では、61年の実績を誇るきものショーのノウハウを活用し、本格的舞台でプロモデルと一緒にきものショーに出演、着付けサービス、ウォーキングレッスン、ハレの日のプチ食事会など季節ごとのハレの日を楽しむ「ハレの日のハレの体験“Shall We きものショー？”事業」を展開し、昨年1年間で9回開催、延べ340名の市民が参加してきもの姿を楽しみました。

本年度からは四半期毎に開催し、(子供の日/母の日、七夕、ハロウィン、バレンタイン)「きものはきれいで楽しい」を提案しております。

■問い合わせ先：

一般社団法人日本絹人織織物工業会

〒102-0073

東京都千代田区九段北1-15-12

TEL: 03-3262-4101

FAX: 03-3262-4270

<http://www.kinujinsen.com>



Shall We きものショー？

きものサミット in 京都 2018 を開催

～わっしょい わっしょい 京都でわっしょい～

全国の川上・川中・川下の和装業界関係者約 400 人が京都に集結！

きものサミット in 京都 2018 開催委員会

平成 30 年 9 月 5 日（水）、ホテルグランヴィア京都で、「きものサミット in 京都 2018」を開催しました。このサミットは、平成 8 年（1996 年）に第 1 回を京都で挙げて以来、全国のきもの産地で不定期に開催。今回のサミットは、平成 26 年（2014 年）に東京で催された第 15 回以来 4 年ぶり、京都での開催は 9 年越しとなります。

サミットのスローガンは、「わっしょい わっしょい 京都でわっしょい」。「和装の持続的発展のための商慣行のあり方について」、「東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組について」、「きもの日の取組について」、「成人式への対応について」、「きもの文化のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組について」の 5 つの協議テーマを設けています。そして、各テーマごとに部会を設置し、各部会の川上・川中・川下のメンバーが事前に集まって議論を交わした内容を、きものサミット当日、参加者にお伝えするというのが大きな特徴。当日は、400 人を超す全国の和装業界関係者が、京都に一堂に会しました。

サミット当日は、まず、前述の 5 つの協議テーマについて議論した内容を、パネルディスカッション又は報告会形式で参加者にご紹介。その後、公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事の冷泉貴実子氏から、「和歌に詠まれた四季」をテーマに講演いただきました。



パネルディスカッション



基調講演

続いて、主催者を代表して、立石義雄会長（京都商工会議所会頭）、ご来賓代表として、西脇隆俊京都府知事及び門川大作京都市長からご挨拶を頂戴した後、野瀬兼治郎実行委員長がサミット宣言を行い、採択されました。



京都聖母学院小学校合唱団

交流会では、NHK全国学校音楽コンクールへの出場実績を持つ京都聖母学院小学校合唱団の児童40名が、かわいらしい着物姿で素晴らしい歌声を披露。続いて、大内聡経済産業省大臣官房審議官に乾杯の発声をいただきました。その後は和やかに歓談が進み、後半には、京都の工芸職人による屋台などのサプライズ企画も登場。服部正毅副実行委員長の中締めで、盛況のうちにきものサミットを終えることができました。

今回のサミットでは、和装業界が直面する5つの課題を協議テーマに採りあげて議論し、サミット宣言を採択しました。

今後は、議論したことを業界全体で共有し、この宣言が和装業界の明るい未来への一歩になることを願っています。



サミット宣言

サミット宣言

生活者が求めるきものがしっかりと生産できる環境を作り、生活者から見て安心してきものが買える環境を作ることは、業界に求められる至急の命題である。

今回のスローガン「わっしょい わっしょい 京都でわっしょい」。この「わっしょい」の語源は、和を背負うと云う意味がある。今回、京都に集まった有志は、まさにきもの業界を背負っている者ばかりである。

このスローガンのもと、皆でしっかりときものの神輿を担ぎ、さらなる業界発展のために、川上・川中・川下の流通の業界関係者をはじめ、和裁やきもの学院他すべてのきものに携わる者が一つになり、きもの業界発展のために今後協力していくことを確認した。

商慣行の改善をはじめ業界の発展のために、5つのテーマに基づきサミット宣言としてここに提言する。

1 和装の持続的発展のための商慣行のあり方

私たちは、きものに関わる川上から川中、川下に至る生産、流通のサプライチェーンの一員としての自覚を持ち、全ての人々が誇りを持って働き続けられるよう、かつ、消費者にとって安全・安心な市場が維持できるよう、商慣行の改善に真摯に取り組み、対処していく。

2 東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組

東京オリパラを日本のオリパラととらえ、全国各地それぞれで「きもの文化」の発信・再考の機会とするとともに、大会の中に「きもの文化」が取り入れられることを要望する。

3 きもの日の取組

11月1日から11月15日のきもの日までを「きものウィーク」とし、一人でも多くの方に「きもの文化」に親しんで頂けるよう、全国の各地域で、きもの着用機会づくりの取組を行う。

4 成人式への対応

成人式は、大人としての自覚を持つことを促す人生の大きな儀式の一つである。成人年齢が引き下げられても、きもの文化を保護・継承するため、20歳での継続開催を希望することを業界全体で共有する。

5 和装（きもの文化）のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組

和装（きもの文化）の保護・継承、発展に向けた活動を展開し、ユネスコ無形文化遺産の登録を目指す。

平成30年9月5日

きものサミット in 京都 2018 開催委員会

天蚕を飼ってみました in 有楽町

一般財団法人大日本蚕糸会

業務部課長 佐藤良介

大日本蚕糸会の事務所内（蚕糸会館6階）で「蚕」を飼育することはよくありましたが、たまたま「天蚕」の卵50粒をいただけることになり、今回初めて「天蚕」を飼育してみました。

単なる興味本位の飼育なので、さらっと息抜きのつもりで読んでいただければと思います。

飼育方法

飼育環境：千代田区有楽町 蚕糸会館6階の事務所の片隅（日当たり良好）、土日を除いた平日は空調が効いており快適です。

飼育道具：①園芸用の支柱、②支柱を支える台座用の発泡スチロール、③プラスチック製の水入れ、④園芸用吸水スポンジ、⑤霧吹き、⑥夜間の逃避防止用ネット、⑦剪定ばさみ、以上の道具は百円均一ショップで揃えました。

えさ：小学校の敷地内に生えているクヌギの葉（許可済）、雑木林に生えているクヌギ・コナラの葉。

枝ごと採取した葉は、事務所内の冷蔵庫に保存しました。一週間ほど入れておいても劣化はしていないように見えました。

飼育方法：以上の道具やえさを写真1の

ように、発泡スチロールに支柱を挿し、水入れに吸水スポンジを入れ吸水させ、枝を挿して飼育しました。平日の朝と夕方にえさの状態を確かめ霧吹きをし、夜は3齢幼虫までは袋を、それ以降はネットを被せて帰宅しました。土日は出社しないので、金曜の夕方にたくさんの枝を挿して帰宅しました。

飼育経過



写真1

天蚕の卵は、5月14日から16日までにほぼ全て孵化しました。発育はばらつきながらも順調に成長していき、6月23日(孵化後41日目)に繭を作り出す天蚕が現れ、7月5日(孵化後53日目)に最後の1頭が繭を作りました。最終的に、50粒の卵から37個の繭が取れました。

感想

皆さんもお気づきのように、写真1の飼育環境で50頭の天蚕はかなり過密でした。4～5齢幼虫ともなると食下量が多いので水挿し容器を1つ増やしましたが、それでも土日明けの月曜の朝見ると、葉がほとんど食べられ、幼虫同士で噛み合ったような跡も多数見られました。

また、えさの確保も大変でした。雑木林に生えている比較的大きなクヌギの葉は高いところにあり、中々採取できませんでした。幸い、小学校に枝を採取しやすいクヌギが生えていて、それを採取してもいいという許可を得られましたので、何とか盛食期を超えられました。

もっと楽しく簡単に飼育するには、この飼育環境では10頭位が限度かと思われま

す。

とはいえ、桑の葉を与えてさえいれば逃げ出さず、その場でひたすら食べ続けている蚕と違って、天蚕はいろいろなところを動き回ったり、脱走したり、飼育していてもとても楽しい経験でした。仕事で疲れている時に天蚕を見に行くと、エメラルドグリーン

の幼虫にとっても癒されました。

殺蛹していない天蚕がいますので、できたら卵を採取して来年も飼育してみようと考えています。



写真2 盛食期



写真3 天蚕繭

シルク博物館

元部長 小泉勝夫

その9 薬に用いた天蚕

天蚕は蚕糸・絹業に携わる者にとっては、通常衣類等の繊維原料として利用することを考え、あまり薬用など他の目的に利用することは考えないであろう。

ところが天蚕は、平安時代に入ると現在でいう漢方薬として用いられていたようである。

8世紀末から9世紀はじめにわたって、中国からたくさんの医薬品が我が国に輸入されるようになった。これに伴って日本人による医書も書かれるようになった。

このような医薬品の乱入に、時の平城天皇（平安時代初期の天皇。在位：806～809年）は、日本古来の治療法が失われることを憂い、中国からの薬品の輸入超過を避けるために、808（大同3）年、安倍真直・出雲広貞に勅命（天皇の命令）し、国内に古くから伝わる薬方を集めさせ、100巻から成る日本固有の「大同類聚方」を編纂させた。

この中に天蚕の薬用的価値が記された。これが、わが国における最初の天蚕薬用記録とされている。

ところが大同類聚方は、早くに散逸してしまい、現存する大同類聚方は江戸時代に再編されたものである。数百年も経過した江戸時代に偽撰されたことになるので、どこまで当初の記述が正確に伝えられている

かは疑問である。

江戸時代後期 1827年に北澤始芳によって執筆された「山繭養法秘傳抄」にも、薬種として山繭（天蚕繭）を使うことが次のように記されている。

「まゆかけ 十五日程過て 糸にさし
 かげぼしに するなり 蒸して後 其葉
 気 うすし 岩崎常正云 張氏医通纂要
 小児門の中 癩疾 また 胎毒によりて
 発するを 治する薬に 山繭 不花
 青黛此三味を ふり出しに志て 用類
 方あり 又 青黛をさり 鬱金を加へて
 も よしとあり…」

この読み方は次のようである。

「繭かけ 十五日ほど過ぎて 糸にさし
 陰干しにするなり 蒸して後 其葉気
 うすし 岩崎常正云う 張氏医通纂要
 小児門のうち 癩疾 また 胎毒に
 よりて発するを 治する薬に 山繭
 ほか 青黛 此三味を ふりだしにし
 て 用いる方あり 又 青黛をさり
 鬱金を加へても よしとあり…」

これでは文意が理解し難いであろうから
 分かりやすく現代文に直してみると、

「繭作りをして 15 日程過ぎてから、そ

の繭に糸を通して日陰干しにする。蒸した後の繭は薬効が薄い。岩崎常正が云うのには、張氏医通纂要ちやうしいつうさんようの小児門の中に、癖疾や胎毒によって起こる病気に、この山繭を用いる。この外、青黛せいたいの味を振り出して（青黛を布袋に入れたまま湯に浸し振り動かして、その薬気を出すこと）用いる方法もある。青黛の代りにウコン〔ショウガ科の多年草〕を加えてもよいという。」



天蚕の蛹（上）と繭中の蛹（下）

江戸時代には、このように天蚕の繭は営繭後 15 日ほど経ってから、繭に糸を通して日陰干しにして、小児の薬として用いたようである。

繭中の蛹にまで糸を通し殺蛹し、日陰干しで乾燥を行い薬用に使用したようである。殺蛹しないと蛾が出てしまうので、蛹体に糸を通したようである。蒸して殺蛹し乾燥したものは薬としての効果が薄いと記されている。

天蚕の利用は衣類の繊維としてよりも、漢方薬としての利用の方が先に始まっていたのであろうか。それとも両用されていたのであろうか。

どうも初期の天蚕史の見えない部分のようである。

なお、ここに示した蛹の写真は江戸時代のものではない。天蚕の繭と蛹をイメージしていただくために、現在飼育されているものを掲載したまでのことである。

その10 蚕糸・絹業関係の民謡

日本民謡の起源は非常に古いが、現代の民謡の体臭を感じさせるようになったのは、徳川時代以降であるといわれている。

日本の歌について最も古い記述を探すと、晋（現在の中国）の陳寿（233～297年）の撰による「魏志」で、この中の東夷伝の倭人の条（魏志倭人伝といわれている）に「とむらの記述があり、ここに歌舞が出てくる。これがわが国の歌と踊りに関する記述のはじまりとされている。

4～5世紀になると、民謡の原形とも思われる「うたがき歌垣」が発生している。歌垣は現在の盆踊り風のもので、男女が山や市などに集まって、互いに歌を詠み舞踏して遊んだ行事といわれている。

大和政権が成立すると、百済から伎楽が、その後奈良時代には唐からの舞楽、散楽が入り、宮廷音楽となっていった。先に述べた歌垣は民衆の間で盛んに流行るようになった。

宮廷音楽となっていた散楽は、平安時代初めに廃止されたが、民衆の芸能として広まっていった。

平安時代になると、宮廷では御神楽や民間では里神楽が行われようになった。

里神楽は日本民謡そのものであるといわれている。また、御神楽の中の催馬楽の歌詞も民謡そのものであるとまでいわれている。

平安時代の中期から末期には今様がはやり、特に平安末期に最も盛んに歌われた。

今様は鎌倉時代中期ごろになると、賤民の間に潜り込み消え去っていった。

中世になると歌謡芸能に関する記録はかなりあるが、民謡の記録は非常に少なくなってしまう。

江戸時代に入ると国別の歌や地方を代表する歌など収録した「しょうそふうぞくか樵蘇風俗歌」、「さんか山家ちようちゆうか鳥中歌」をはじめ、「ひなのひとふし鄙廼一曲」、「うすひき臼挽歌集」、「こなひき粉挽歌」、「おどりしょうか踊唱歌」、「おふねうたどめ御船唄留」、「えんかせん艶歌撰」、中古雑謡集などいろいろな歌集が出されたので、現代の民謡らしさが感じられるようになってきた。

江戸時代の民謡は、その地のみならず各地にさまざまな方法で伝えられて行くようになった。

その事例をみると、北前船で働く船員たちによって立ち寄る港・港で習い覚えた民謡の伝達、僧の姿をした座頭やざとう座頭やごぜ瞽女による伝達、旅芸人による伝達、神社・仏閣まわりの道中での遊女や飯盛り女などによる伝達、湯治場での民謡の交流など、さまざまな手法で唄い広められていった。

現在、我々が使っている「民謡」という言葉は、明治中期ごろまでは、風俗歌、俗歌、俗謡、里歌、里謡、巷歌、地方唄という呼び方が一般的で、民謡とは云わなかった。

「民謡」という語が付けられた大会が1920（大正9）年、各地の民謡を集めて神田青年会館で開催された。この大会名は「第

1 回民謡大会」と表示され、これが公に民謡という呼び方をした始まりといわれている。

現在、唄われている民謡は、江戸時代の風俗習慣を描写した歌詞が多く、ほとんどがこの時代の唄であろうといわれている。

明治時代になると、新橋一横浜間の鉄道開通にはじまり、その後全国各地に敷設されることによって、都会と田舎が結ばれ、田舎唄であった民謡が都会へと紹介されていくようになった。しかし、民謡は前述したように明治、大正から昭和初期ごろまでは、里謡、^{ひなうた}鄙歌、^{こじきうた}乞食唄、^{いなか}田舎唄などと呼ばれ、軽蔑された見方がされがちであった。

当時、都会で人気になった地方里謡は、いずれも三味線を用いたお座敷唄となって流行した。里謡は、このようにして田舎から都会へ入り込んでいった。やがて都会で唄われると、本来の里謡などといわれた民謡は趣を変え、都会の流行り唄となり、この俗謡が逆に田舎へ広められて行くようになった。

1896（明治 29）年に蓄音機が米国から輸入された。この輸入を機に、明治 30 年代からは俗謡がレコード化され大流行するようになっていった。大正初期はレコードの揺籃期といわれ、レコード会社が次々と設立されていった。営利目的の会社であったので、売れ行きの良い学校唱歌、謡曲、長唄、端唄、小唄、浪花節などの吹込みが主体で、里謡（民謡のこと）などの吹込みは敬遠されがちであった。従って里謡のレコード化は難しい時代であったともいわれているが、関係者の努力によってだんだんと制作され普及するようになった。

大正時代に入ると、新日本音楽運動が起こ

り、この一環として「新民謡」の誕生をみるようになった。特に大正末期から昭和に入ってから、北原白秋、野口雨情、西条八十らによって新民謡の創作が行われ全盛を極めた。

1925（大正 14）年に、^{あたご}愛宕山からラジオ放送がはじまると、民謡も放送されだした。ラジオの聴取者は年々増加し、民謡愛好者が全国に広まり大きな普及をみるに至った。

昭和に入り、日中戦争、続いて太平洋戦争に突入すると、普及しだしていた民謡は影を潜め、壊滅状態となってしまった。

戦後になるとラジオ、テレビの普及が目覚ましく、NHK ばかりでなく民放も放送をはじめたので、民謡は各局から盛んに放送されるようになった。こうして一般大衆のものになり、ブームを生むようになった。民謡は NHK の「素人のど自慢大会」「民謡教室」「民謡酒場」をはじめ、民放の放送によって大衆化されていった。

ところで全国各地には、蚕糸・絹業関係の民謡が非常に多くある。養蚕、糸繰り、機織りなど、現在でもよく耳にする民謡が多い。この中から、養蚕関係では福島県の養蚕唄、染色関係では山形県の紅花摘み唄、機織り関係では京都の西陣機織り唄の歌詞を次に取り上げてみた。

養蚕唄（福島県）

へ ハアー 伊達の^{やながわ}梁川ナーエ 蚕の里よ
（トコ ドッコイナ）
蚕黄金のナーエ 宝虫
（コラ ドッコイ ドッコイナ
ハア ドッコイ ドッコイナ）
（お囃子は以下同じ）

- へ ハアー どうせ住むなら ^{かいどころ}お蚕所
 人に実もある 義理もある
 可愛想だよ お蚕様よ
 糸に引かれて 丸裸
- へ ハアー 蚕上って 広瀬の橋で
 末を語って 水鏡
 私や 蚕の あの絹糸よ
 細くて 長くて 切れやせぬ
- へ ハアー わたしとお前は 玉繭だもの
 糸になるまで 離れない

^{べにばなつみうた}
紅花摘唄

(山形県)

- へ 千歳山からナ ^{こうか たねま}紅花の種播いたヨ
 (ハ シャン シャン)
 それで山形 花だらけ
 (サーサ 摘ましゃれ 摘ましゃれ)
- へ 咲いた花よりナ 見る花よりもヨ
 摘んで楽しむ 花の唄
- へ 紅花染めなら 今晚限りヨ
 明日の晩から うすくなる
- へ 好きなそもじとナ 紅花染めはヨ
 一夜一夜に 濃おくなる
- へ 紅花染めならナ 色よく染まれヨ
 色がよければ 気がいさむ

西陣機織り唄 (京都府)

- へ ドッコイショー ドッコイショー
 坊や泣くなら つの国へやろか
 ドッコイショー ドッコイショー
 わたしゃ京都の西陣よ
 ドッコイショー ドッコイショー
 下は極楽 本願寺さんよ
 ドッコイショー ドッコイショー
 上は地獄の西陣よ
 ドッコイショー ドッコイショー

- へ ドッコイショー ドッコイショー
 死んでしまいたい 霜月師走
 ドッコイショー ドッコイショー
 生まれかえりたいお正月
 ドッコイショー ドッコイショー
 寝たい眠りたい姉さん寝たい
 ドッコイショー ドッコイショー
 姉がままなら寝さそもの
 ドッコイショー ドッコイショー
- へ ドッコイショー ドッコイショー
 織り手さんとは承知で惚れた
 ドッコイショー ドッコイショー
 糸繰りさんとは知らなんだ
 ドッコイショー ドッコイショー
 わたしゃ糸切りちゃつぎの織り手
 ドッコイショー ドッコイショー
 今朝もあぜありさんに叱られた
 ドッコイショー ドッコイショー



平成 25 年度民謡民舞全国大会
 会場：国技館

民謡教室が現在全国各地にたくさんある。また各地で民謡大会が催されている。写真に示したような民謡民舞全国大会やヤングフェスティバル全国大会をはじめ全国規模の民謡大会が、現在も各地で盛んに催されているので、足を運んでみてはいかがでしょうか。

消毒の作法

—その2 蚕期終了後の消毒作業の重要性—

一般財団法人 大日本蚕糸会
蚕業技術研究所

主任研究員 野澤瑞佳

はじめに

シルクレポート本年4月号(No.57)では、春蚕期が始まる前の消毒作業について消毒液の調製方法や消毒作業のポイントを書きました。この内容を参考にして春蚕期から消毒作業を徹底した農家の皆様、その後の作柄は如何でしたでしょうか？おそらく春と晩秋蚕期は上作で、夏秋蚕期は猛暑の影響のため、繭の品質にバラツキが生じ、飼育に大変苦労されたのではないかと推測されます。また、晩秋蚕期については、最近、硬化病が多発する傾向にあるため、地域によっては作柄が不安定になったところもあるかもしれません。最近の養蚕現場の問題として、「核多角体病(膿病)による内部汚染繭の発生」、「夏秋蚕期の高温障害」、「晩秋蚕期以降に発生する硬化病」の問題のほか、農薬のドリフトによるカイコの農薬中毒が発生しており、蚕室・蚕具の消毒だけで違作の問題を全て解決できるわけではありませんが、ウイルス病が上記の問題と併発した場合の壊滅的な違作を回避するためにも蚕室・蚕具の消毒作業は必ず徹底してほしいと思います。今回は、“消毒に始まり、消毒に終わる”後半部分、すなわち、蚕期終了後の消毒作業の重要性についてお話しします。

上簇室に蓄積する核多角体病ウイルス

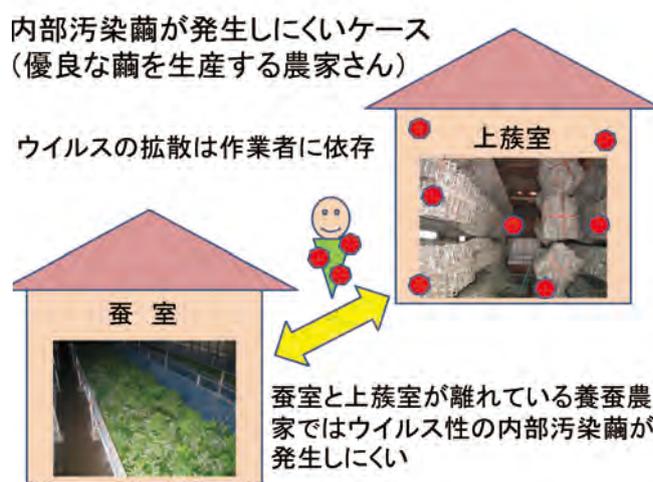
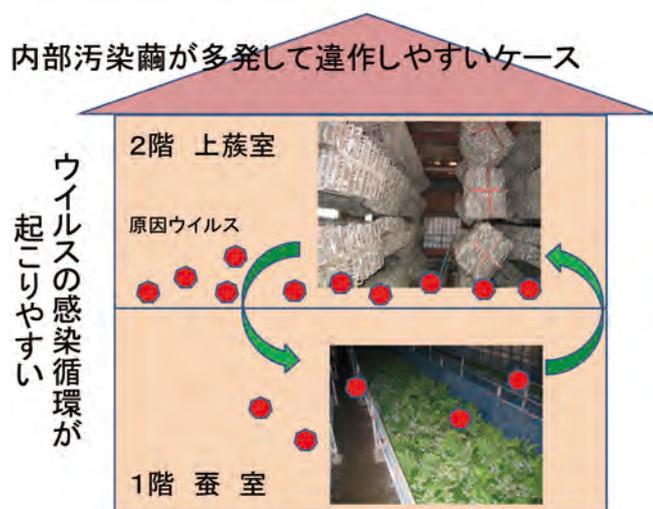
今から10年以上前に、茨城県下の養蚕農家を対象に核多角体病(膿病)ウイルスによる内部汚染繭の発生状況とウイルスの分布状況を詳細に調べたことがありました。春～晩々秋蚕期の各飼育前後に、飼育関連施設(中蚕室、壮蚕室、上簇室および貯桑場)や母屋の玄関前から塵埃を採取して、埃に含まれるウイルスを検出することで、養蚕現場におけるウイルスの拡散範囲や分布傾向を調べる調査を行いました。その結果、核多角体病ウイルスで内部汚染繭が発生しやすい養蚕現場では、上簇室からウイルスが検出される傾向にあり、上簇室からウイルスが検出されると、蚕室や貯桑場だけでなく、母屋の玄関前からもウイルスが検出されました。上簇室内がウイルスで汚染されていると、養蚕農家の施設一帯にウイルスが拡散していきます。核多角体病がなぜ養蚕現場で流行し続けるのか？この原因を解明するために、今から37年前、当時、長野県蚕業試験場に勤めていた清水孝夫博士と東京大学の渡部仁教授が長野県下の養蚕農家を対象に核多角体病の流行要因を調べたことがありました。その当時の

見解では、飼育されていた普通蚕品種間で核多角体病ウイルスに対する感受性（感染のしやすさ）に差異が無いこと、核多角体病ウイルスにホルマリン抵抗性が発達した可能性は低いことから、養蚕農家で核多角体病が流行した原因は、消毒の不徹底であると考察しました。つまり、消毒を逃れたウイルスが次の蚕期に再びカイコへ感染するため、核多角体病が流行しやすいと考えたのです。ウイルスが蚕期から蚕期へと広義の意味で垂直伝播を繰り返すため、養蚕現場から“ウイルスが抜けない”状況を繰り返すわけです。私は、清水博士と渡部教授が発表したこの論文を読んだ時、この論文はまだ研究の途上であって、複数の養蚕現場における核多角体病ウイルスの分布傾向を調べることで消毒が不徹底となりやすい場所を特定できるのではないかと考えました。その結果は、すでに述べたとおり、上蔭室が最も消毒不徹底となりやすい場所であり、上蔭室から核多角体病ウイルスが拡散してカイコへ感染し、上蔭前後に発病

した病蚕から再び上蔭室内にウイルスが拡散すると考えられます。核多角体病が常習的に発生する養蚕現場では、ウイルスの拡散を防ぐため、蚕期終了直後に上蔭室内の徹底した消毒作業を行うことが必要です。

核多角体病ウイルスの拡散を防ぐために

上蔭室から核多角体病ウイルスが検出されると、母屋の玄関先までウイルスが拡散しています。履物を替えずに上蔭室から退室し、蚕室や貯桑場へ移動すると、作業者の移動に伴ってウイルスが拡散していきます。作業着にもウイルスが付着して拡散する事例も報告されていますので、上蔭室で作業を行う場合には、履物を替える、退出直後に手をよく洗う、上蔭室内で着用した作業着は速やかに洗濯してしまうなど、作業上の配慮が必要です。その年最後の蚕期が終了したら、速やかに上蔭室を消毒・洗浄し、上蔭室内のウイルスが作業者の移動に伴って拡散しないように注意が必要です。



核多角体病を防ぐには上蔭室の管理が重要

消毒作業の徹底でウイルスの越年を防ぐ

これまでの調査研究から、春蚕期よりも晩秋、晩々秋蚕期に、核多角病（膿病）による内部汚染繭が多発する傾向にあり、上簇室内もウイルスで汚染されることが判明しています。核多角体病ウイルスは、多角体と呼ばれるタンパク質の結晶中にウイルス粒子が包埋されているため、感染力のあるウイルス粒子が自然環境中に長期間存在することができます。上簇室のように暗室で乾燥した条件下では、100日以上もウイルスが生存できるため、その年に上簇室内に残留したウイルスは、翌年の春蚕期まで感染力を維持しています。養蚕農家の方に、このウイルスの特徴を説明すると、「冬を越せば寒さでウイルスが死滅するから消毒しなくても問題ない」と発言する方もいますが、ウイルスの一般的な傾向として、低温条件下では不活化が進行しにくく、感染力も維持されやすい傾向があるので、この点は誤解しないように注意が必要です。その年、最後の蚕期が終了したら、上簇室を中心に、飼育関連施設を徹底的に消毒・洗浄し、作業動線上も消石灰の飽和液を散布してほしいと思います。特に、上簇室を農産物の加工場などに使用する場合には、蚕期終了後も上簇室へたびたび入退室を繰り返すため、消毒・洗浄作業を徹底して確実にウイルスを不活化してほしいと思います。

来年も「消毒」・「洗浄」・「乾燥」・「隔離」を忘れずに

今年のシルクレポート 4月号で、「消毒」・

「洗浄」・「乾燥」・「隔離」の重要性を記述しましたが、核多角体病が常習的に発生している養蚕現場では、この一連の流れが養蚕作業に定着していない場合がほとんどです。核多角体病ウイルスを確実に不活化できる消毒手段（消石灰飽和液や養蚕用除菌洗浄剤）を用いて、養蚕関連施設内を洗い流すように消毒し、消毒効果が得られる一定時間（30分程度）が経過してから、施設内を徹底的に洗浄します。核多角体病が常習的に発生し、たびたび違作を繰り返すような養蚕現場では、消石灰飽和液を散布して消毒を行い、更に養蚕用除菌洗浄剤で追加的な消毒を兼ねながら洗浄作業を行うと効果的です。病気がほとんど目立たない養蚕現場では、消石灰飽和液か養蚕用除菌洗浄剤で消毒後、多量の水で施設内を洗浄します。消石灰飽和液で施設内を消毒し、水で洗浄する方法が最も低コストで楽ですが、消石灰飽和液はウイルス以外の病原体（硬化病菌や細菌など）には消毒効果が低いため、晩秋蚕期以降に硬化病が多発する養蚕地域や、種繭の生産を担う養蚕農家では、硬化病菌や微粒子病原虫にも消毒効果が得られる養蚕用除菌洗浄剤で消毒作業を行い、多量の水で施設内を洗浄する方法が良いと思います。以上の方法で消毒・洗浄作業を終えたら、施設内を乾燥し、上簇室については簇の準備を済ませてしまい、上簇が始まるまで隔離しておきます。特に春蚕期は、核多角体病がその後の蚕期に多発するかどうかを左右する重要な蚕期となりますので、上簇室を中心に、施設全体の消

毒・洗浄作業を徹底し、配蚕前に簇の準備を済ませたら上簇まで入室しない配慮が必要です。春蚕期から核多角体病で作柄が不安定となりやすい養蚕現場ではこの作業手順をぜひ試してほしいと思います。

夏秋蚕期に多発した繭中斃死蚕について

今年も夏秋蚕期に異常な高温が続き、連日猛暑となりました。カイコは幼虫の間であれば35℃くらいの高温条件下でも生存していますが、上簇の時期になると、急激に高温に弱くなります。30℃くらいまでの気温であれば、営繭して化蛹することができますが、それ以上の高温条件下が日中の間、継続すると、不吐糸蚕が多発したり、営繭後に化蛹せず幼虫のまま腐敗して内部汚染繭が多発することがあります。これまで内部汚染繭の主たる発生原因は、核多角体病ウイルスとお話ししてきましたが、最近は、夏場の高温障害で内部汚染繭が多発する傾向にあります。上簇室内の温度が外気温を超えないように送風機を設置して日陰の外気を取り込んだり、上簇する場所を見直したりして、上簇期間中の温度管理にこれまで以上に注意を払う必要があります。

おわりに

内部汚染繭が多発する原因には、核多角体病ウイルスによるものと、高温障害による非ウイルス性のものがあります。カイコの飼育に適した春蚕期や晩秋～晩々秋蚕期に、品質の良い繭を歩留まり良く量産するためには、常にウイルスの存在を意識して、

蚕病防除に努める必要があります。核多角体病ウイルスは、これまでの調査から上簇室に蓄積する傾向があるため、上簇室を中心とした施設全体の消毒・洗浄作業が不可欠です。その年最後の蚕期が終了したら、ウイルスの越年と拡散を防ぐため、早めの消毒・洗浄作業を心がけて下さい。シルクレポート本年4月号で紹介した蚕期開始前の消毒・洗浄作業の徹底と、最終蚕期終了後の消毒・洗浄作業が定着すれば、核多角体病による被害は必ず沈静化します。ウイルス病による慢性的な違作から壊滅的な違作に発展してしまうと、通常の作柄に戻すために数年の期間を要してしまいます。ウイルス病の対策は予防第一と考えて、病気が発生していなくても、消毒・洗浄作業を習慣化してほしいと思います。「消毒に始まり、消毒に終わる養蚕」の本懐は、病気の予防であることをお伝えして「消毒の作法その2」を終わります。

■問い合わせ先：

一般財団法人大日本蚕糸会

蚕業技術研究所

〒300-0324

茨城県稲敷郡阿見町飯倉1053番地

TEL：029-889-1771

FAX：029-889-2356

E-mail：nozawa@silk.or.jp

夢のようだった蚕糸科学研究所での研修

韓国伝統文化大学 伝統美術工芸学科

博士課程 チェ 崔 ジョンイム 貞任

はじめに

私は主に絹織物に草木染めをしてきました。染色をすればするほど織りまで行い、私の個性がより一層反映された作品を作りたいくなりました。それで、繭糸を作ることから織りまでの全工程を学ぶことができる所をあちこち探し回っていた時、京都の染司よしおか当主・染織史家である吉岡幸雄先生から西予市野村シルク博物館の紹介を受け、そこで2年間研修しました。

2009年5月のある暑い日、窓を開けて一人で座繰りをしていたときに、涼しい風と一緒に“あ～、これを私の人生の修行方法として生きても良いな...”という考えがかすめていきました。その後から繰糸場の繭はダンスを踊るようで、座繰機を回していると摩尼車まにぐるまを回しているような気分になり、感謝の気持ちが押し寄せてきました。毎回、座繰り作業は私にやすらぎと幸福を感じさせてくれるし、繭に対するありがたいと思う心は、良い糸を作ることによって報いたいと思うようになりました。それから私なりに実験を試みましたが、すればするほど気になることは増えました。短時間ではなく、時間をかけて専門的に研究しなけれ

ばならない仕事なのだと悟りました。最初野村シルク博物館に行ったのは、糸を作ることだけでなく、全過程、特に織りの技術を学ぶためだったので、座繰りの実験に多くの時間をかけることは出来ませんでした。

韓国に帰ってきた私は大学に入って勉強をするようになりました。そして延ばしてきた製糸の勉強をしようと思って専門機関を探してみましたが、見つけることができませんでした。そこで亀崎壽治野村シルク博物館長にお願いし、大日本蚕糸会を紹介していただき、2017年7月19日から2018年3月15日までの8ヶ月間、蚕糸科学研究所で研修を行いました。

伝統が生きている日本の蚕糸関連機関

展示館・博物館と言えば、昔使っていたものを集めた場所で、過去の歴史が陳列されているだけだと思います。しかし、私が見学した東京農工大学科学博物館は、在来式の製糸道具、紡績機、織機、編機など自動繰糸機が展示されており、専門ボランティアの方が展示品を動かしながら説明してくださいました。そして、岡谷蚕糸博物

館は、館内に(株)宮坂製糸所を併設しており、絹の糸の世界を五感で感じるができる場所でした。また、駒ヶ根シルクミュージアムは年中飼育されている蚕を見ることができました。流れた歴史だけがあるところではなく、今、私たちの生活の周辺までつながっている感じを受けました。

蚕業技術研究所は、蚕種製造とブランド繭の確立を目標として製糸、絹業家の要請に応える優秀な蚕品種を育成していました。そしてカイコの種を冷凍保管して、必要なとき解凍して使うことができるようにするというお話を伺い、過去に輝いたことを私達が現在見て、現在の光は、未来の誰かが見上げることになる、星のような仕事をしていらっしゃるという気がしました。

製糸工場は全部で3ヶ所を見学しました。1番目の松沢製糸所は創業以来変わらない水質を保有している井戸水と木材を燃料として使うボイラーが使われており、先祖に学んだ製糸方法を維持しながら現代的技術も反映して、良い糸を作ろうとしているところでした。2番目の(株)宮坂製糸所は繭の種類・繭保管方法・繰糸方法の組み合わせで様々な生糸を生産し、諏訪式座繰機・上州式座繰機・多条繰糸機・自動繰糸機・銀河シルク繰糸機・極細生糸繰糸機などいくつかの繰糸道具と機械を使用して糸を作っていました。3番目の碓氷製糸(株)は日本国内で生産された繭を生糸に加工して、全国の生糸販売会社と絹織物工房などに販売している日本最大の製糸工場です。最近では、自動繰糸機に節を感知するセンサーを

取付けて、良い糸を作るために努力していました。

すべての方々が温故知新の精神でさらに良い糸を作るために努力していることに感銘を受け、私もそのような気持ちで製糸の勉強を続けなければと思いました。

幸せだった蚕糸科学研究所での研修

私が通っている大学は、韓国文化財庁が伝統文化の継承発展と文化財の保存管理及び活用に関する伝統文化の専門家の養成を目的に設立した大学です。そして、私は伝統美術工芸学科の伝統繊維を専攻しています。

蚕糸科学研究所での研修期間における製糸実験では、繊維工学的な基礎知識を習得し、工芸的な観点から器械繰糸が行われる前の伝統的・在来的に使用された材料・道具・技術に含まれた知恵を体系的に実験しようと思いました。そして、その結果を科学的に分析して客観化しようと思いました。本実験に入る前に、繰糸の際切断された糸を結ぶ方法から、繭の作り方、生糸検査するとき使用する機械を扱って試料を作成する方法など研究所すべての方々の教えを受けて、予備実験をしました。このように何から何まで教えていただいたおかげで、本実験を行うことができました。

本実験は、韓国の古文献を基本にして共通点と差異点を調べ、日本の古文献と近・現代製糸関連文献を参考にして実験条件を検討し、繭の品種、繭保管方法、繰糸温度、製糸道具の4項目について表1に示すよう

に因子を設定し、組み合わせによる実験計画を立てました。合計 40 種類の生糸を作った後、引張試験・節・光沢・色相検査をしました。実験結果は、後日まとめて論文として作成する予定です。

＜表 1＞実験条件

項目	因子
繭の品種	錦秋×鍾和
	小石丸
繭保管方法	生
	塩蔵
	蒸気
	分乾
	本乾
繰糸温度	低温
	高温
製糸道具	座繰機
	膝

おわりに

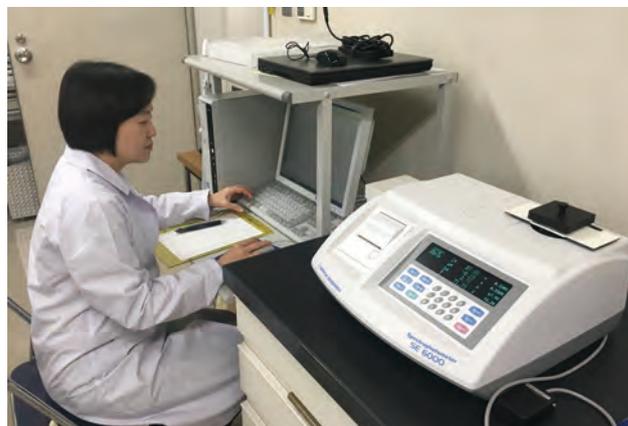
研修できるという気持ちだけを持って、過ごした蚕糸科学研究所での研修生活を終えて韓国に帰ってきて考えてみると、美し

い夢を見ていたようです。そして私の最初の製糸実験を蚕糸科学研究所で行うことができたのは、多くの方々の助けを借りられた結果です。そして、その時その場所でその方たちと生活することができたのは、言葉で表現することはできませんが、縁の紐があったと思われます。小さな力ですが、蚕糸と関連して、韓国と日本をつなぐ何かをなささいという意味だったのではないか？という気もしています。

最後に、大日本蚕糸会並びにご指導いただいた清水重人所長、岡島正章氏、研究アドバイザー木下晴夫氏をはじめ蚕糸科学研究所の皆様には感謝するとともに、見学を受け入れてくださった蚕業技術研究所、東京農工大学科学博物館、岡谷蚕糸博物館、横浜シルク博物館、駒ヶ根シルクミュージアム、碓氷製糸(株)、(株)宮坂製糸所、松沢製糸所すべての方々、ありがとうございました。研修で学んだことを礎石にして、より一層熱心に製糸の勉強をしていきたいと思えます。



座繰り実習



色相検査

伝統継承施設「西予市野村シルク博物館」

西予市野村シルク博物館

館長 亀崎壽治

はじめに



シルク博物館

野村町の蚕糸業の歴史は、明治3年の養蚕業導入から始まる。野村町は、霧の発生が多く、傾斜地に広がる畑が桑の栽培に適していたため、養蚕業は急速に普及し、野村町の近代化と発展を支えた基幹産業として成長してきた。昭和45年の最盛期には、養蚕農家戸数801戸、収繭量245トンの経営規模を誇り県下有数の産地として「シルクの町・野村町」が確立されたが、価格の低迷、養蚕農家の高齢化、後継者不足等により、次第に衰退の道をたどり平成6年3月末に愛媛県蚕糸農業協同組合連合会が解散し、製糸工場も閉鎖された。野村シルク博物館は、町の基幹産業であった養蚕・蚕糸業の歴史と文化を後世に正しく伝えると共にシルクを中心とする染織文化の情報発信と「人と文化・町と農村の交流」を促進し、地域の活性化を図ることを目的に平成6年7月に開館した。

1. 常設展示場



地域の養蚕の歴史、愛媛県蚕糸農業協同組合連合会野村工場などの製糸の歴史に関する各種資料、その他養蚕、染織等に使用された道具類及び衣装などが展示され地域の歴史、生糸の製造過程等が学べる施設であり「伊予生糸」の重要な歴史が判る。

2. 企画展示場



世界の染織文化の情報発信をテーマに、国内外の民族衣装を中心とする企画展を定

期的に開催するほか文化活動として絵画、写真、趣味の作品展等の展示場としての活用も図っている。

3. 伝習室・ロビー



藍染め



コースター織り

一般者を対象にロウケツ染め、草木染めなどの染め体験及び織の体験としてコースター織やショール織りの体験を年間を通して行っている。

又、年間有料会員（現在 30 名）を募り、紬及び染織のカルチャースクールを開催している。

4. 染織講座

全国で唯一、西予市で生産された繭から糸づくり技法、天然染料による染色、手織による織の技法を学べる「染織講座」を開設している。今までに日本国内はもとより、韓国などからも受講生を約 120 名受け入れている。



織物館

5. 製糸工場



繰糸場

野村シルク博物館では、もう一度「伊予生糸」を生産したいとの強い意向があり、平成 9 年より西予市の養蚕農家が生産した繭（改良あけぼの等）を低温貯蔵し、改良多条繰糸機で低速繰糸された生糸の生産を始めた。この生糸は、高い品質・評価を得て、世界に誇れる生糸として平成 28 年 2 月 2 日に農林水産省の、「地理的表示保護制度 (GI)」に「伊予生糸」として登録された。付加価値の差別化生糸を生産することにより、農家の経営安定を図っている。

■ 問い合わせ先：

西予市野村シルク博物館

〒 797-1212

愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1

TEL&FAX：0894-72-3710

● ジャパンシルクセンター

純国産生糸振興・碓氷製糸提携グループ・西陣織物作品展

西陣織とは・・・その良さや美しさとは・・・それは、「紋織」の魅力です。紋織りによる「意匠のちから」。その紋意匠を形づくる「技法の力」そして、この繊細かつ力強い紋織を創るための、「素材の美」。

西陣織物の美と技術を通じて純国産生糸の価値を一般消費者に紹介します。

〈会期〉11月9日（金）～11月12日（日）10:00～19:00（最終日は16:00まで）

〈主催〉碓氷製糸提携グループ

〈会場〉ジャパンシルクセンター 〒100-0006 千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館1階

Tel: 03-3215-1212

● 駒ヶ根シルクミュージアム 第49回特別展「第11回現代手織物クラフト公募展」

当公募展は、全国で独自の創作活動をしている織物のプロ、および将来プロを目指す方たちが創作した、独創的で優れた織物作品を展覧し、広く織物愛好家に向けて紹介するとともに、自立の道を拓く支援の場となることを目的に開催します。

〈会期〉10月18日（木）～11月25日（日）9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日：水曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始

〈主催〉現代手織物クラフト公募展実行委員会

〈共催〉駒ヶ根シルクミュージアム/織の財団

〈会場〉駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那482番地

Tel: 0265-82-8381

● 日本絹の里 第84回特別展「生糸貿易の偉人とオールドノリタケ」

対米輸出など、生糸貿易で活躍した人物像を群馬ゆかりの人を中心に紹介するとともに、生糸と同様にアメリカへ輸出された繊細で芸術的なオールドノリタケを展示します。

〈会期〉平成30年10月13日（土）～12月10日（月）9:30～17:00

休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）、12/27～1/5 * 1/3 臨時開館

〈主催〉群馬県立日本絹の里

〈会場〉群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古888-1

Tel: 027-360-6300

● 日本絹の里 第85回特別展「上毛かるたでめぐる絹文化」

「桐生は日本の機どころ」「日本で最初の富岡製糸」など、群馬の郷土かるたである「上毛かるた」になぞらえて群馬の産業・文化の中心にあった養蚕や絹産業を紹介します。

〈会期〉平成30年12月15日（土）～平成31年2月4日（月）9:30～17:00

休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）、12/27～1/5 * 1/3 臨時開館

〈主催〉群馬県立日本絹の里

〈会場〉群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古888-1

Tel: 027-360-6300

●岡谷蚕糸博物館 企画展「皇室のご養蚕とシルク岡谷」

皇室のご養蚕の様子や日本古来の蚕品種「小石丸」の飼育が文化財の復元に役立てられていること、また皇室のご養蚕とシルクのまち岡谷との関わりなどを紹介します。

〈会期〉平成30年9月6日（木）～11月5日（日）9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日、12/27～1/3 その他臨時休館あり

「小石丸の繭を使った水引の飾りづくり」

小石丸の繭をあしらった水引飾りづくりをします。できた飾りはお持ち帰りいただけます。

日時：10月21日（日）13:30～15:30

定員：20名（事前に電話かE-mailで申込み）

会場：岡谷蚕糸博物館 まゆちゃん工房（無料ゾーン）

参加費：800円

〈主催〉岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

〈会場〉岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8

Tel: 0266-23-3489

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●岡谷蚕糸博物館 収蔵品点「中国古代復元絹織物」(仮)

平成10年、岡谷市は中国の「蘇州絲綢博物館」との間に学術協定を締結しました。以降、同館より提供を受けた「中国古代復元絹織物」を一挙公開いたします

〈会期〉平成30年11月8日（木）～平成31年4月中旬 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日、12/27～1/3 その他臨時休館あり

〈主催〉岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

〈会場〉岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8

Tel: 0266-23-3489

●シルク博物館 秋の特別展「第25回全国染織作品展」

本展では、絹を用いた染織作品を広く全国から募集し、厳正な審査のうへ、入選作品を一堂に展覧します。本展を通じて、次代をになう新進作家の育成及び染織技術の向上と服飾文化の発展を図るとともに、絹の需要増進に寄与したいと考えています。

〈会期〉10月20日（土）～11月25日（日）9:30～17:00（入館は16:30まで）

〈主催〉シルク博物館

〈会場〉シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地

Tel: 045-641-0841

●シルク博物館

冬休み企画 [チャレンジ! かいこプログラム] たのしいかいこの発表会

「たのしいかいこの発表会・表彰式」12月16日(日)

児童の皆さんから募集した、かいこの観察記録やまゆ・生糸を使った作品などを展示します。 *詳細は準備中

〈会期〉12月18日(土)～1月14日(月・祝) 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

ウィンターフェスティバル ―シルキークリスマス―

シルクスカーフを用いたファッションショーやクラシックコンサートなどを開催予定。

*詳細は準備中

12月16日(日)は無料開放日!です。

連続講座 開館60周年イベント 「いざ横浜一生糸を運ぶ(仮称)」

平成31年にシルクセンター開館60周年を迎えるにあたり、前年度の「町の記憶～山下町1番地を中心に～」に引き続き、イベントとして連続講座を開催いたします。今回は、「いざ横浜一生糸を運ぶ」をテーマに生糸輸送の手段としての陸運・水運・鉄道の3つの視点から考察します。 *詳細は準備中

〈開催日〉1月12日(土)、2月9日(土)、3月9日(土)

〈主催〉シルク博物館

〈会場〉シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地

Tel: 045-641-0841

平成 30 年度第 2 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 30 年度第 2 次審査委員会を平成 30 年 8 月 29 日（水）に開催しました。今回の申請は 10 者で、新規 4 者 7 品目、使用許諾されている 6 者のうち製品の追加 3 者 4 品目、履歴の追加 3 者 9 品目、数量の追加 2 者 3 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、10 者 23 品目に対し、9 月 5 日（水）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) (株) 大翻 代表者名：後藤裕一 (担当者：後藤裕一) 〒 462-0845 名古屋市北区柳原 2 丁目 8 番 3 号 TEL：052-915-5980 表示者登録番号 227	靴下 手袋	250 足 350 双	繭生産 JA 信州諏訪管内牛山金一 製 糸 松澤製糸所 製 編 若竹 (株)
(新規) (株) 中忠商店 代表者名：中村忠彦 (担当者：中村忠彦) 〒 602-8442 京都市上京区大宮通今出川下る薬師町 245 番地 TEL：075-431-1331 表示者登録番号 228	靴下 手袋	250 足 350 双	繭生産 JA 信州諏訪管内牛山金一 製 糸 松澤製糸所 製 編 若竹 (株)
(新規) (株) 帛撰 代表者名：小口和興 (担当者：小口和興) 〒 603-8158 京都市北区紫野宮西町 23-10 TEL：075-415-3132 表示者登録番号 229	先染帯地 (名古屋帯) 先染帯地 (袋帯) (特例)	50 本 25 本	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 染 色 小河染工場 製 織 中居織物
(新規) (株) 京朋 代表者名：柳修司 (担当者：柳修司) 〒 604-8163 京都市中京区室町通六角下る鯉山町 505 TEL：075-222-1211 表示者登録番号 230	白生地 (紋意匠しのめ)	20 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 (株) アシヨネ 精 練 丹後織物工業組合

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴の追加) (株) ソーホー 代表者名：奥村尚司 (担当者：奥村尚司) 〒 600-8357 京都市下京区猪熊通五条下る柿本町 606-1 TEL：075-353-8802 表示者登録番号 200	白生地 (紋意匠五節句) 白生地 (紋意匠 モッコウバラ) 白生地 (すめらぎ紋意匠)	10 反 35 反 30 反	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製 織 (株) アシヨネ 精 練 丹後織物工業組合
	白生地 (紋意匠ゆうな)	35 反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製 織 (株) アシヨネ 精 練 丹後織物工業組合
(製品の追加) 渡豊工房 代表者名：渡辺豊一 (担当者：渡辺豊一) 〒 990-0301 山形県東村山郡山辺町大字山辺 892-1 TEL：023-664-5405 表示者登録番号 190	先染反物 (もじり織・ 草木染)	23 反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA みやぎ仙南管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 燃 糸 梅津燃糸工場 染 織 自工房
	先染反物 (もじり織)	36 反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA みやぎ仙南管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 燃 糸 梅津燃糸工場 染 色 佐米染色(有) 製 織 自工房
(製品・数量の追加) (株) やまと 代表者名：田村裕二 (担当者：小川裕久) 〒 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-27-3 TEL：03-3354-0345 表示者登録番号 059	(製品の追加) 先染め着尺 (加賀友禅用)	24 反	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 JA しおさい 製 糸 JA おやま管内養蚕農家 燃 糸 碓氷製糸(株) 染 織 大橋燃糸工場、弥栄燃糸 蕪重織物(株)
	(数量の追加) 白生地 (加賀友禅用)	450 反	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 燃 糸 岩城健一、弥栄燃糸 製 織 江原産業(株)
(製品の追加) (株) マルシバ 代表者名：木下幸太郎 (担当者：野口俊二) 〒 103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-5-4 6 階 TEL：03-3662-2431 表示者登録番号 160	帯地(白塩瀬)	38 本	制作企画 女子美術大学 蚕品種 蚕技研 11号 繭生産 JA 常陸管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製 織 江口機業(株)

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴・数量の追加) (株) 高島屋 代表者名：木本茂 (担当者：伊藤ゆ香) 〒 542-8510 大阪府中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	(履歴の追加) 後染反物 (振袖)	1 枚	繭生産 JA 那須南管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 篠春織物 (株) 染色加工 (株) 千總
	(数量の追加) 後染反物 (振袖) 後染反物 (振袖)	24 枚 36 枚	繭生産 JA 那須南管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 (株) 竹林 染色加工 (株) 千總
(履歴の追加) 田中種 (株) 代表者名：田中隆 (担当者：) 田中隆 〒 541-0056 大阪府中央区久太郎町 2-3-15 大阪府婦人子供服会館 3 階 TEL：06-6261-2091 表示者登録番号 060	ニット (手袋)	800 双	繭生産 JA 北つくば管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 撚糸 昭和撚糸工業 (株) 製編・縫製 (株) 今川
	ニット (靴下)	500 足	繭生産 JA 北つくば管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 撚糸 昭和撚糸工業 (株) 製編・縫製 タビオ (株)
	ニット (ネックウォーマー)	300 枚	繭生産 JA 北つくば管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 撚糸 昭和撚糸工業 (株) 製編 (株) 森下メリヤス工場 縫製 神戸生糸 (株)
	真綿ふとん	9 枚	(詰物) 繭生産 JA ふくしま未来管内養蚕農家 真綿生産 石川彦太郎商店 (側) 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 製織 齋栄織物 (株)

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 平成 30 年度第 3 次：平成 30 年 11 月 26 日（月）

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：平成 30 年 10 月 25 日（木）

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、小林、廣瀬

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3511

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

小林：kobaei@silk.or.jp

廣瀬：hirose_takato@silk.or.jp

一般財団法人大日本蚕糸会から

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 平成30年9月5日（H30-第2次）現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	(有) 樹（いづき）	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物（色無地、黒紋付）
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 （絹小沢（株））	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸）、後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が5%を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物（色無地）、先染帯地（袋帯：金銀糸が5%を超えるもの）
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物(江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地)、後染帯地、白生地(表地)
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物(色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物(振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地(長襦袢地、胴裏)、ニット(靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物(黒紋付(冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物(色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物(色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物(色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物(色無地、訪問着)、白生地(表地、胴裏、帯地)、白生地(表地(天蚕糸交織))、白生地(帯地(天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物(色無地、黒紋付)
038	(株) 榊屋高尾	京都市北区	先染帯地(袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物(色無地、黒紋付)、白生地(表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物(色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物(結城紬)、先染帯地(結城紬)、白生地(結城紬)
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地(金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物(紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音(株)	京都市中京区	後染反物(色無地(変三越、駒紬))
051	やまと(株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井(株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物(有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和(株)	京都市中京区	先染反物(結城紬)、先染帯地(結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物(色無地、黒紋付)
058	浅山織物(株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地(金銀糸が5%を超えるもの)、白生地(加賀友禅用)、先染着尺(加賀友禅用)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮城県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、縞九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
128	大門屋	福井県大野市	白生地（牛首紬）、後染帯地（牛首紬）、ショール（牛首紬）、先染反物（飯田紬）
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物（帯揚、半衿）
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物（小紋）
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物（小紋）
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物（小紋）
133	西川産業(株)	東京都中央区	寝具寝装品（掛布団）
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣（長肌着、短肌着）
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物（小紋）
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、禪、マフラー（手織り）
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物（小紋）
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物（小紋）
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物（小紋）、ニット（靴下）
142	五嶋(株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏（トルマリン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物（色無地）、後染帯地
146	宮井(株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、加賀友禅）
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、トランクス）、パジャマ、袱紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物（色無地、付下）
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物(株)	京都市北区	先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物（型友禅、羽二重色無地）、先染反物（ジャガード織）
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物（小紋）
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品（ふとん、ふとんカバー）、洋装品（スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地）、服飾品（スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レグカバー）
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地（胴裏）、和装小物（袱紗）、ネクタイ、帯地（白塩瀬）
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物（小紋）
162	福純織物(株)	福岡市西区	先染帯地（本袋男帯、八寸名古屋帯）

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地(表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地(表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品(布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))、ニット(靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物(置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物(大島紬)、先染帯地(大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地(八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット(腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物(小紋(変一越))
182	京呉服好一(株)	京都市北区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏(パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物(小紋(変一越))
185	マテリアル ロープ 磨	東京都練馬区	後染反物(小紋(変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物(緋着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地(表地)、帯締、羽織紐、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの(株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地(表地、夏物表地)
189	ニット青木(株)	東京都品川区	ニット(スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物(綾御召(男物、女物)、市松綾御召(草木染め)、もじり織(草木染)、もじり織)、裏地(紬八掛)、先染ストール
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮(きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物(小紋(変一越))
193	アトリエI T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嗟が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)、先染帯地 (袋帯)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静さきの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
214	染織家 村江菊絵	東京都目黒区	先染帯地 (作家作品)、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
219	Noble Silk (株)	東京都中央区	ニット (インナー、パンツ、ひざ掛け、ジャケット)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地)
227	(株) 大醐	名古屋市北区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を越えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)

一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌 No. 59 (H30.7.1 ~ H30.9.30)

月日	活 動 内 容 等
7/6	シルクのまちづくり市区町村協議会への出席 (東京都有楽町 蚕糸会館)
7/10	伊勢神宮の御料生糸に関する打合せ (京都府)
7/12	蚕糸絹文化振興対策事業に関する現地調査 (群馬県)
7/13	遺伝子組換えカイコ事業に関する打合せ (群馬県)
7/24	蚕糸絹文化振興対策事業に関する現地調査 (山梨県)
8/1~2	子ども霞が関見学デーへの協力 (東京都霞が関 農林水産省)
8/8~9	信州ブランド繭・蚕用途開発協議会委員会への出席等 (長野県)
8/8~12	夏休み子ども教室 (東京都有楽町 蚕糸会館)
8/27~28	蚕糸絹文化振興対策事業に関する現地調査 (長野県)
8/29	純国産絹マーク審査委員会 (平成30年度第2次) (東京都有楽町 蚕糸会館)
9/11	蚕糸絹文化振興対策事業に関する現地調査 (群馬県)
9/18~19	蚕糸絹文化振興対策事業に関する現地調査 (鹿児島県奄美大島)
9/19	役員・評議員懇談会及び臨時理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
蚕糸科学研究所展示室	169-0073	東京都新宿区百人町 3-25-1	03-3368-4891
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上峰屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業 (株) 内	0772-72-0307

名 称	〒	住 所	電 話
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人織織物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougeihin.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室
http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都市上京区）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

<http://komagane-silk.com/>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

[お知らせ]

次号(平成31年1月号)より、統計資料掲載項目について以下の通り、変更致しますので、ご了承願います。

統計資料 平成31年1月号(No.60)以降の年間掲載計画

<国内>	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	掲載中止			
<海外>				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量		○		
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	掲載中止			
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	掲載中止			
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数				
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移				
(9) 中国省別従業員年平均賃金(2016年)				

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	48
(2) 養蚕農家数の推移	49
(3) 繭生産数量の推移	50
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	51
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	52
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	53
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	57
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	55
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	56
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	57
(11) 製糸工場の原料繭需給	58
(12) 製糸工場の操業状況	59
(13) 生糸在庫数量の内訳	60
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	61
(15) 生糸の原産国別輸入数量	62
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	63
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	64
(18) 絹織物生産数量	65
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	66
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	67

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	68
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	69
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	70
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	71
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	72
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	74
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数	75
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	76
(9) 中国省別従業員年平均賃金（2016年）	77

－資料・国内－

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次(暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	6	60	33.6	9,955
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486	168	346	0.4	9	31	32.0	2,940
2014 (26)	393	149	379	0.4	9	34	-	2,734
2015 (27)	368	135	367	0.4	8	30	-	2,316
2016 (28)	349	130	372	0.3	8	26	-	2,243
2017 (29)	336	125	372	0.3	8	28	-	2,194
前年比(%) 2017/2016	96.3	96.2	99.9	100.0	100.0	107.7	-	97.8

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織機物工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
 ・平成23年以降の養蚕業は(一財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
2017		336	307	201	280
前年比(%) 2017/2016		96.3	99.0	96.2	90.3

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年) .
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移
Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
2016		130	47	32	50	372	153	155	162
2017		125	47	29	49	370	153	144	175
前年比(%) 2017/2016		96.3	99.3	89.5	97.8	99.4	100.2	93.0	108.3
2017年 構成比(%)		100.0	37.6	23.2	39.2				

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	28年	29年	前年対比	28年	29年	前年対比	28年	29年	前年対比	28年	29年	前年対比
青森県	1	1	-	1	1	-	2	1	50.0	2	2	100.0
岩手県	14	9	64.3	11	10	90.9	18	14	77.8	18	15	83.3
宮城県	9	12	133.3	10	10	100.0	13	7	53.8	15	15	100.0
山形県	6	6	100.0	5	3	60.0	7	6	85.7	8	7	87.5
福島県	34	38	111.8	36	38	105.6	37	40	108.1	41	44	107.3
茨城県	13	10	76.9	10	8	80.0	12	8	66.7	13	10	76.9
栃木県	23	22	95.7	16	16	100.0	23	20	87.0	23	22	95.7
群馬県	111	111	100.0	71	69	97.2	114	108	94.7	122	119	97.5
埼玉県	28	25	89.3	19	17	89.5	26	22	84.6	29	25	86.2
千葉県	6	7	116.7	4	5	125.0	6	6	100.0	7	7	100.0
東京都	4	3	75.0	-	-	-	3	3	100.0	4	3	75.0
新潟県	8	8	100.0	-	1	-	-	-	-	8	8	100.0
福井県	1	1	100.0	-	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	10	8	80.0	4	3	75.0	10	8	80.0	11	8	72.7
長野県	15	15	100.0	12	12	100.0	14	15	107.1	18	17	94.4
岐阜県	7	7	100.0	-	-	-	5	4	80.0	7	8	114.3
愛知県	2	2	100.0	-	-	-	1	-	-	2	2	100.0
京都府	2	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-
兵庫県	1	1	100.0	-	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	10	11	110.0	6	5	83.3	10	10	100.0	11	12	109.1
高知県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
熊本県	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	3	-
宮崎県	1	2	200.0	-	-	-	1	2	200.0	1	2	200.0
鹿児島県	3	4	133.3	4	3	75.0	4	2	50.0	4	4	100.0
全国計	310	307	99.0	209	201	96.2	310	280	90.3	349	336	96.3

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年間		
	28年	29年	前年比	28年	29年	前年比	28年	29年	前年比	28年	29年	前年比
青森県	65.0	70.4	108.3%	73.7	82.0	111.3%	113.2	70.0	61.8%	251.9	222.4	88.3%
岩手県	1,395.1	1,070.0	76.7%	1,575.4	1,517.7	96.3%	1,969.5	1,493.7	75.8%	4,940.0	4,081.4	82.6%
宮城県	1,560.5	1,118.4	71.7%	1,367.4	1,231.4	90.1%	1,589.7	1,526.2	96.0%	4,517.6	3,876.0	85.8%
山形県	1,156.1	1,197.3	103.6%	608.6	559.4	91.9%	1,534.9	1,310.0	85.3%	3,299.6	3,066.7	92.9%
福島県	6,191.7	6,800.6	109.8%	7,105.0	6,368.6	89.6%	9,065.5	8,156.4	90.0%	22,362.2	21,325.6	95.4%
茨城県	2,068.9	1,518.2	73.4%	1,241.5	1,013.3	81.6%	1,840.2	1,511.7	82.1%	5,150.6	4,043.2	78.5%
栃木県	6,657.7	6,570.9	98.7%	3,959.0	3,505.5	88.5%	8,305.0	7,828.0	94.3%	18,921.7	17,904.4	94.6%
群馬県	17,773.8	17,945.6	101.0%	11,151.3	9,887.1	88.7%	16,902.9	17,852.4	105.6%	45,828.0	45,685.1	99.7%
埼玉県	3,110.6	3,431.4	110.3%	2,132.2	1,572.8	73.8%	3,039.1	3,035.5	99.9%	8,281.9	8,039.7	97.1%
千葉県	1,084.0	950.7	87.7%	484.7	437.1	90.2%	625.0	720.3	115.2%	2,193.7	2,108.1	96.1%
東京都	219.6	105.5	48.0%	-	-	-	75.4	115.5	153.2%	295.0	221.0	74.9%
山梨県	2,115.6	2,127.4	100.6%	704.0	512.7	72.8%	1,618.3	1,908.0	117.9%	4,437.9	4,548.1	102.5%
長野県	1,624.3	1,456.6	89.7%	950.9	1,328.7	139.7%	1,677.9	1,569.0	93.5%	4,253.1	4,354.3	102.4%
新潟県	108.6	109.3	100.6%	-	27.5	-	-	0.0	-	108.6	136.8	126.0%
福井県	59.1	57.9	98.0%	-	0.0	-	30.0	35.7	119.0%	89.1	93.5	104.9%
岐阜県	574.1	572.8	99.8%	-	0.0	-	419.5	200.5	47.8%	993.6	773.3	77.8%
愛知県	87.9	84.8	96.5%	-	0.0	-	25.5	0.0	0.0%	113.4	84.8	74.8%
兵庫県	68.8	39.0	56.7%	-	0.0	-	64.5	39.0	60.5%	133.3	78.0	58.5%
京都府	36.7	0.0	0.0%	-	0.0%	-	26.8	0.0	0.0%	63.5	0.0	0.0%
愛媛県	1,263.9	1,511.2	119.6%	955.1	1,199.8	125.6%	1,033.7	1,255.2	121.4%	3,252.7	3,966.2	121.9%
高知県	13.9	3.6	25.9%	-	0.0	-	-	0.0	-	13.9	3.6	25.9%
熊本県	-	102.2	-	-	-	-	-	70.0	-	-	172.2	-
宮崎県	65.2	83.0	127.3%	-	-	-	35.6	84.4	237.1%	100.8	167.4	166.1%
鹿児島県	47.0	85.0	180.9%	105.0	95.0	90.5%	97.0	60.0	61.9%	249.0	240.0	96.4%
全国計	47,348.1	47,011.7	99.3%	32,413.8	29,338.6	90.5%	50,089.2	48,841.5	97.5%	129,851.1	125,191.8	96.4%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)		2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)	
		箱 box	割合 rate %						
錦秋1号 × 鐘和1号		3,278	33.4	2,899	30.0	2,800	31.5	2,635	32.3
錦秋 × 鐘和		1,754	17.9	1,946	20.1	1,606	18.1	1,566	19.2
ぐんま200		1,104	11.3	1,019	10.5	949	10.7	926	11.3
春嶺 × 鐘月1号		1,116	11.4	1,242	12.8	1,100	12.4	906	11.1
春嶺1号 × 鐘月1号		872	8.9	780	8.1	679	7.6	700	8.6
松岡 × 鐘月1号		350	3.6	300	3.1	445	5.0	275	3.4
新緑小石丸号		129	1.3	107	1.1	178	2.0	143	1.8
緑いりょう × あげぼの丸号		18	0.2	22	0.2	39	0.4	120	1.5
小石丸号		140	1.4	136	1.4	133	1.5	94	1.2
白繭 × 石丸号		134	1.4	180	1.9	96	1.1	85	1.0
改良小石丸号		92	0.9	39	0.4	59	0.7	79	1.0
朝日 × 東ホーイ		58	0.6	110	1.1	58	0.7	59	0.7
プらんチ × ナマ黄		128	1.3	58	0.6	66	0.7	56	0.7
ぐんま × 二ま		103	1.1	116	1.2	59	0.7	55	0.7
世ぐん × 二ま		23	0.2	78	0.8	17	0.2	50	0.6
蚕技 × 研11		126	1.3	95	1.0	101	1.1	48	0.6
大い × 黄ど		42	0.4	43	0.4	44	0.5	46	0.6
白 × 黄ど		23	0.2	41	0.4	55	0.6	45	0.6
玉 × 麗石		76	0.8	134	1.4	52	0.6	40	0.5
青 × 小		31	0.3	26	0.3	60	0.7	30	0.4
山東3 × C5・C6		20	0.2	39	0.4	49	0.6	29	0.4
秋 × C5・507		33	0.3	33	0.3	10	0.1	14	0.2
上 × 竜絹		22	0.2	11	0.1	26	0.3	12	0.1
奄 × 黄		26	0.3			26	0.3	12	0.1
太 × 長		4	0.0	4	0.0	15	0.2	10	0.1
黄 × 長		8	0.1	43	0.4	42	0.5	9	0.1
N5 × TY40		20	0.2	32	0.3	12	0.1	8	0.1
支21 × 四川3眠		4	0.0	8	0.1	12	0.1	8	0.1
Ok × nBL		4	0.0	4	0.0			5	0.1
新青 × 支21				5	0.1	10	0.1		
極 × 支1		5	0.1	8	0.1	5	0.1	2	0.0
緑 × 支1		16	0.2	11	0.1	2	0.0		
Nk × Cu1		10	0.1	6	0.1				
白 × 細2		8	0.1						
極 × 細3		3	0.0						
玉 × 細3		2	0.0						
鷹 × 青									
支108 × C5・505									
山東3 × 中515									
青 × 中515									
又 × 中515									
合計 Total		9,808	100.0	9,668	100.0	8,887	100.0	8,162	100.0

資料：(一財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
暦年 Calendar Year									
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,554	1,750	14,560	245	4,897	4,785
2014 —									
1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 —									
1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	530	479
6	37	628	0	680	1,535	1,293	32	463	432
7	30	572	0	638	1,499	1,283	40	484	442
8	25	467	0	448	1,543	1,238	47	371	391
9	23	479	0	557	1,488	1,152	30	364	380
10	28	462	0	517	1,461	1,161	16	549	504
11	25	530	0	509	1,507	1,024	6	522	403
12	27	380	0	504	1,410	983	17	407	434
2016 —									
1	23	423	0	513	1,343	1,101	35	468	354
2	33	595	0	607	1,364	797	10	460	348
3	38	636	0	401	1,637	911	15	384	523
4	26	0	0	414	1,249	1,047	19	445	478
5	24	726	0	529	1,470	900	20	493	364
6	17	555	0	648	1,394	1,295	12	457	434
7	26	642	0	630	1,432	1,072	8	442	443
8	26	589	0	599	1,448	967	9	383	332
9	30	520	0	620	1,378	946	5	374	426
10	20	602	0	572	1,428	862	17	414	415
11	28	664	0	700	1,420	1,161	22	493	407
12	26	596	0	636	1,406	1,035	5	394	416
2017 —									
1	23	552	0	534	1,447	1,314	7	522	249
2	23	509	0	479	1,500	535	35	203	454
3	23	805	1	693	1,634	1,376	21	456	469
4	26	0	0	122	1,538	1,255	23	371	437
5	36	997	0	1,021	1,550	1,389	14	466	411
6	26	735	0	773	1,538	1,285	17	499	410
7	24	437	0	515	1,484	960	18	388	441
8	25	839	0	799	1,549	1,443	9	391	355
9	35	664	0	543	1,705	1,259	12	395	381
10	31	700	0	725	1,711	815	36	321	389
11	34	760	0	783	1,722	1,542	20	522	399
12	33	561	0	569	1,747	1,388	34	360	390
2018 —									
1	25	778	0	728	1,822	1,200	552	453	312
2	24	401	0	510	1,737	798	2,195	342	325
3	28	496	0	600	1,661	1,080	2,878	241	510
4	24	0	0	145	1,540	929	15	356	436
5	34	926	0	791	1,709	1,127	9	368	394
6	29	348	0	439	1,647	941	11	357	455
7	24	348	0	387	1,632	788	13	339	426

資料：(A)(C)(D)(E)農林水産省生産局調査(～2010.3)、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会(2010.4～2012.3)、中央蚕糸協会(2012.12～)。(B)財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F)(G)(H)(I)財務省関税局調査。

備考：1. 国内引渡数量(D)=[前月在庫数量+(A)+(B)]-[C)+(E)]。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A)(C)(D)(E)The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3)、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11)、Central Raw Silk Association(2012.12～)。

(B)The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan.1996 until Mar.2008, excluding bonded silk.

(F)(G)(H)(I)The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D)=[Stock at end of the previous month+(A)+(B)]-[C)+(E)]。

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	生 糸 Raw Silk					
		計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year							
2006		1,956	4	240	531	653	523
2007		1,747	5	259	495	514	474
2008		1,588	4	289	421	368	503
2009		1,152	1	243	392	251	262
2010		882	1	179	316	86	300
2011		731	1	188	249	89	204
2012		506	0	109	202	73	82
2013		409	0	109	105	57	138
2014		446	0	114	116	62	155
2015		378	0	146	86	36	110
2016		317	0	98	103	38	78
2017		339	0	107	95	53	84
2014 -	1	30	—	9	3	2	16
	2	39	—	10	4	0	25
	3	35	—	14	6	6	9
	4	42	—	7	11	7	17
	5	41	—	9	17	5	10
	6	45	—	13	12	5	15
	7	39	—	13	8	8	10
	8	24	—	1	15	0	8
	9	32	—	9	10	1	12
	10	43	—	10	8	11	14
	11	34	—	9	12	9	4
	12	43	—	10	10	8	15
2015 -	1	35	—	10	12	6	7
	2	44	—	6	12	12	14
	3	37	—	17	11	4	5
	4	38	—	16	2	8	12
	5	29	—	13	4	0	12
	6	37	—	15	6	2	14
	7	30	—	13	6	0	11
	8	25	—	8	9	0	8
	9	23	—	14	3	1	5
	10	28	—	8	12	0	8
	11	25	—	12	5	2	6
	12	27	—	14	4	1	8
2016 -	1	23	—	7	11	0	5
	2	33	—	10	7	4	12
	3	38	—	9	12	11	6
	4	26	—	6	12	1	7
	5	24	—	3	7	2	12
	6	17	—	11	3	0	3
	7	26	—	10	10	0	6
	8	26	—	7	9	6	4
	9	30	—	7	12	1	10
	10	20	—	8	4	3	5
	11	28	—	10	11	3	4
	12	26	—	10	5	7	4
2017 -	1	23	—	5	8	4	6
	2	23	—	13	3	0	7
	3	23	—	6	12	0	5
	4	26	—	9	10	0	7
	5	36	—	9	7	10	10
	6	26	—	8	6	4	8
	7	24	—	10	2	3	9
	8	25	—	11	7	1	6
	9	35	—	11	13	3	8
	10	31	—	9	4	13	5
	11	34	—	7	8	10	9
	12	33	—	9	15	5	4
2018 -	1	25	—	4	10	8	3
	2	24	—	12	8	—	4
	3	28	—	12	2	4	10
	4	24	—	5	16	—	3
	5	34	—	10	12	9	3
	6	29	—	8	11	6	4
	7	24	—	8	7	5	4

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)
(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	239	45	0	194	7	12	14	161	194	15	0	0	9	6	179	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	22	0	1	11	10	172	45
前年比(%) 2017/2016	100	100	—	100	114	125	64	101	100	147	—	—	122	167	96	100

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注) 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source : "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	前年比% y/y	構成比% ratio
	布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	2.4	2.2	1.7	77.3
女子用外衣類 Women's upper garments		38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	65.6	73.9	81.2	109.9	50.2
うちブラウス Blouse of the inside		2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	1.2	1.0	0.9	90.0	0.6
男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	1.3	1.9	2.2	115.8	1.4
女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	18.8	20.3	22.1	108.9	13.7
ハンカチ Handkerchief		0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	150.0	0.2
ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	1.9	1.5	1.4	93.3	0.9
ネクタイ類 Ties		18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	7.8	7.9	10.5	132.9	6.5
メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting		17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	17.9	23.2	11.1	47.8	6.9
その他の洋装類 Other western clothes		21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	15.9	15.4	14.8	96.1	9.1
洋装類計 Western clothes subtotal	115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	131.9	146.5	162.4	110.9	100.3	
和装類計 Japanese clothes subtotal	14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	10.3	11.5	13.9	120.9	8.6	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside	12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	8.6	10.1	12.3	121.8	7.6	
その他 Others	2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	2.6	2.5	2.6	104.0	1.6	
合計 Total		133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	144.7	160.5	161.9	100.9	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note: Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭・t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2007	548	581	505
	2008	393	518	378
	2009	308	385	313
	2010	240	299	263
	2011	189	162	237
	2012	185	209	183
	2013	142	137	188
	2014	128	158	158
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
	2017	103	120	103
2015	—			
	1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95
	6	22	13	104
	7	29	11	122
	8	14	8	128
	9	12	37	103
	10	34	9	128
	11	5	9	124
	12	0	9	115
2016	—			
	1	0	8	107
	2	0	11	96
	3	0	13	83
	4	0	9	74
	5	0	8	66
	6	23	6	83
	7	24	10	97
	8	10	8	99
	9	7	10	96
	10	39	8	127
	11	12	10	129
	12	0	9	120
2017	—			
	1	1	8	113
	2	0	9	104
	3	0	8	96
	4	1	9	88
	5	0	12	76
	6	22	9	89
	7	25	9	105
	8	12	9	108
	9	1	12	97
	10	33	11	119
	11	8	12	115
	12	0	12	103
2018	—			
	1	0	9	94
	2	2	8	88
	3	0	11	77
	4	0	8	69
	5	0	12	57
	6	18	10	65
	7	20	8	77

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。
中央蚕糸協会(2012.12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。
2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。
3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).
Central Raw Silk Association (2012.12～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.
2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	6	112	90	80	266	90
	2009	6	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	9	110	38	31	249	58
	2014	9	110	38	34	261	58
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	57
	2017	8	110	31	28	266	54
	2014 -	1	110	38	35	20	57
		2	110	37	34	23	57
		3	110	37	34	22	57
		4	110	37	34	23	57
		5	110	37	34	22	57
		6	110	38	35	23	62
		7	110	39	35	20	62
		8	110	26	24	23	50
		9	110	38	35	19	58
		10	110	38	35	23	62
		11	110	37	34	21	62
		12	110	38	35	22	58
	2015 -	1	110	37	34	20	57
		2	110	39	35	21	57
		3	110	38	35	23	61
		4	110	38	35	23	60
		5	110	37	34	20	60
		6	110	39	35	23	60
		7	110	35	32	22	60
		8	110	26	24	20	48
		9	110	23	21	23	48
		10	110	25	23	23	53
		11	110	27	25	22	53
		12	110	27	25	23	53
	2016 -	1	110	25	23	19	53
		2	110	34	31	22	57
		3	110	36	33	23	57
		4	110	31	28	23	58
		5	110	21	19	21	50
		6	110	20	19	23	49
		7	110	31	28	23	63
		8	110	31	28	21	59
		9	110	30	27	23	58
		10	110	30	27	24	61
		11	110	29	26	22	61
		12	110	30	27	23	55
	2017 -	1	110	33	30	19	51
		2	110	31	28	22	51
		3	110	19	17	23	42
		4	110	21	19	23	48
		5	110	33	30	23	58
		6	110	32	29	23	62
		7	110	21	19	24	52
		8	110	35	32	22	48
		9	110	38	35	23	59
		10	110	34	31	22	62
		11	110	36	33	22	61
		12	110	41	37	20	59
	2018 -	1	74	37	50	16	58
		2	74	28	38	19	48
		3	74	23	31	24	48
		4	74	25	34	22	39
		5	74	43	58	21	49
		6	74	34	46	24	61
		7	74	31	42	22	59

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央製糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。
中央製糸協会及び(一財)大日本製糸会(2012.12～)。

備 考 : 1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。
2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。
3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).
Central Raw Silk Association(2012.12～)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	0
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016	1,406	1,406	130	—	1,276				
2017	1,747	1,747	156	—	1,591				
2015 —									
1	1,747	1,747	74	—	1,673				
2	1,758	1,758	77	—	1,681				
3	1,911	1,911	80	—	1,831				
4	1,418	1,418	75	—	1,343				
5	1,550	1,550	83	—	1,467				
6	1,535	1,535	88	—	1,447				
7	1,499	1,499	89	—	1,410				
8	1,543	1,543	87	—	1,456				
9	1,488	1,488	89	—	1,399				
10	1,461	1,461	87	—	1,374				
11	1,507	1,507	79	—	1,428				
12	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016 —									
1	1,343	1,343	93	—	1,251				
2	1,364	1,364	97	—	1,267				
3	1,637	1,637	119	—	1,518				
4	1,249	1,249	116	—	1,133				
5	1,470	1,470	114	—	1,356				
6	1,394	1,394	111	—	1,283				
7	1,432	1,432	107	—	1,325				
8	1,448	1,448	111	—	1,337				
9	1,378	1,378	118	—	1,260				
10	1,428	1,428	110	—	1,318				
11	1,420	1,420	123	—	1,297				
12	1,406	1,406	130	—	1,276				
2017 —									
1	1,447	1,447	129	—	1,318				
2	1,500	1,500	127	—	1,373				
3	1,634	1,634	124	—	1,510				
4	1,538	1,538	112	—	1,426				
5	1,550	1,550	123	—	1,427				
6	1,538	1,538	116	—	1,422				
7	1,484	1,484	107	—	1,377				
8	1,549	1,549	107	—	1,442				
9	1,705	1,705	119	—	1,586				
10	1,711	1,711	123	—	1,588				
11	1,722	1,722	138	—	1,584				
12	1,747	1,747	156	—	1,591				
2018 —									
1	1,822	1,822	156	—	1,666				
2	1,737	1,737	158	—	1,579				
3	1,661	1,661	166	—	1,495				
4	1,540	1,540	161	—	1,379				
5	1,709	1,709	174	—	1,535				
6	1,647	1,647	184	—	1,463				
7	1,632	1,632	182	—	1,450				

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。中央蚕糸協会(2012.12～)
Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).
Central Raw Silk Association (2012.12～).

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況

Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成30年(2018)		平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	29年/28年 2017/2016 (%)
		(7月) Jul.	(累計) Accumulat ed Total								
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	348	3,258	9,323	10,032	9,332	8,235	6,479	6,546	7,560	115.5
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	788	6,863	17,526	16,179	15,844	14,820	14,051	12,094	14,560	120.4
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	14	18	62	81	169	48	33	41	39	95.1
繭 Cocoon	kg	0	0	4,050	6,250	8,300	10,200	6,800	7,000	6,400	91.4
くず繭 Waste Cocoon	kg	179	5,216	10,885	6,457	13,314	11,728	8,860	4,602	6,289	136.7
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	10,097	62,434	98,732	107,023	92,024	101,655	89,984	53,737	57,361	106.7
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	10,276	67,650	109,617	107,022	105,338	113,383	98,844	58,339	63,650	109.1
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	26,143	182,711	394,920	482,523	438,786	453,450	343,101	331,100	320,022	96.7
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	10,037	82,452	118,404	140,188	152,749	141,707	148,796	121,788	118,382	97.2
絹織物 Silk Fabrics	m ²	339,199	2,456,377	8,422,094	7,218,094	6,661,585	6,097,501	5,468,177	5,206,131	4,896,980	94.1

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2007	12,858	8,804	3,848	-	206	-
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122	-
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	-	41	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	-	32	-
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	-	5	-
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	-	-	-
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	-	-
2014	8,241 (90)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	7	20
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	-
2016	6,546 (52)	5,378 (44)	1,142 (8)	24	2	-
2017	7,560 (68)	6,008 (62)	1,456 (5)	91	2	1
2015 - 1	722	510	212	-	-	-
2	614 (2)	589 (2)	15	10	-	-
3	802 (2)	769	33 (2)	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	822 (3)	689 (3)	133	-	-	-
6	628 (23)	572 (23)	47	10	-	-
7	572 (15)	534 (10)	36 (5)	-	2	-
8	467 (6)	417 (6)	50	-	-	-
9	479	364	115	-	-	-
10	462 (6)	366 (6)	96	-	-	-
11	530 (2)	444	86 (2)	-	-	-
12	380	315	65	-	-	-
2016 - 1	423 (10)	299 (10)	124	-	-	-
2	595	493	102 (3)	-	-	-
3	636	596	40	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	726 (15)	557 (15)	167	-	2	-
6	555 (10)	503 (5)	52 (5)	-	-	-
7	642 (7)	523 (7)	118	1	-	-
8	589	499	88	2	-	-
9	520 (5)	447 (5)	73	-	-	-
10	602 (2)	442 (2)	160	-	-	-
11	664	599 (10)	64	-	-	-
12	596	421	154	21	-	-
2017 - 1	552 (7)	453 (7)	99	-	-	-
2	509 (8)	443 (8)	66	-	-	-
3	805	636	137	30	2	-
4	-	-	-	-	-	-
5	997 (9)	708 (8)	289 (0)	-	-	-
6	735 (5)	591 (5)	117	27	-	-
7	437 (1)	321	85 (1)	32	-	-
8	839 (8)	653 (6)	186 (2)	-	-	-
9	664 (4)	584 (4)	81	-	-	-
10	700 (17)	603 (17)	94	3	-	1
11	760 (7)	593 (5)	167 (2)	-	-	-
12	561 (2)	424 (2)	136	-	-	-
2018 - 1	778 (4)	640 (4)	116	-	22	-
2	401	266	135	-	-	-
3	496 (5)	385 (5)	100	-	11	-
4	-	-	-	-	-	-
5	926 (17)	667 (15)	259 (2)	-	-	-
6	348	234	95	-	20	-
7	348	343 (13)	5	-	-	-

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2015		14,051	—	7,928	5,586	4	0	531	2
2016		12,094	—	7,289	4,074	16	0	711	4
2017		14,560	—	8,431	5,256	10	0	862	0
2015 —	1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
	2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
	3	693	—	405	268	—	0	21	—
	4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
	5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
	6	1,293	—	679	564	1	0	48	—
	7	1,283	—	697	568	—	—	17	—
	8	1,238	—	732	490	—	—	15	1
	9	1,152	—	692	401	—	—	59	—
	10	1,161	—	528	594	—	—	39	—
	11	1,024	—	536	431	1	—	56	0
	12	983	—	601	339	2	—	41	—
2016 —	1	1,101	—	564	476	—	—	62	—
	2	797	—	468	292	0	0	35	2
	3	911	—	579	289	—	—	42	—
	4	1,047	—	659	357	—	—	30	1
	5	900	—	538	255	4	—	102	—
	6	1,295	—	802	442	—	—	51	—
	7	1,072	—	573	423	—	—	76	—
	8	967	—	566	332	—	—	69	—
	9	946	—	598	294	2	—	51	—
	10	862	—	548	250	—	—	62	2
	11	1,161	—	783	295	7	0	76	—
	12	1,035	—	610	368	1	—	55	—
2017 —	1	1,314	—	931	326	2	—	54	—
	2	535	—	199	307	3	—	26	—
	3	1,376	—	725	540	0	—	111	—
	4	1,255	—	630	595	—	—	30	—
	5	1,389	—	844	423	—	0	121	—
	6	1,285	—	821	397	—	—	67	—
	7	960	—	493	426	0	—	40	—
	8	1,443	—	795	534	1	—	112	—
	9	1,259	—	838	371	—	—	50	0
	10	815	—	459	313	2	0	41	—
	11	1,542	—	833	570	1	—	137	—
	12	1,388	—	862	454	1	0	71	—
2018 —	1	1,200	—	613	526	1	—	60	—
	2	798	—	449	299	1	—	49	—
	3	1,080	—	598	370	2	0	109	—
	4	929	—	553	365	0	—	10	—
	5	1,127	—	666	321	—	—	141	—
	6	941	—	417	443	—	—	81	—
	7	788	—	459	318	—	—	12	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価
Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/Kg
Unit:bale of 60kg.yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946
2017	5,946	6,574	1,451	6,517	8,431	6,762	862	7,381	5,256	6,627
2015 -										
1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	-	-	-	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224
7	524	6,801	31	8,836	697	7,053	17	9,483	568	7,673
8	412	7,056	50	8,072	732	6,853	15	9,407	490	7,285
9	364	6,760	115	7,593	692	6,854	59	8,577	401	7,007
10	360	6,381	96	7,553	528	6,625	39	8,424	594	6,948
11	444	6,338	84	7,827	536	6,825	56	8,506	431	6,872
12	315	6,496	65	7,091	601	6,665	41	8,132	339	6,821
2016 -										
1	289	6,176	124	6,937	564	6,281	62	7,798	476	6,358
2	493	6,000	99	7,188	468	6,279	35	7,786	292	6,422
3	596	5,838	40	5,973	579	5,969	42	7,248	289	6,056
4	-	-	-	-	659	5,668	30	6,711	357	6,090
5	542	5,541	167	6,027	538	5,636	102	6,759	255	5,730
6	498	5,497	47	5,933	802	5,641	51	6,361	442	5,777
7	516	5,332	118	5,566	573	5,360	76	6,157	423	5,419
8	499	5,370	88	5,194	566	5,549	69	6,104	332	5,340
9	442	5,217	73	5,565	598	5,395	51	6,087	294	5,636
10	440	5,276	160	6,069	548	5,420	62	6,122	250	5,883
11	599	5,575	64	5,460	783	5,716	76	6,425	295	6,101
12	421	6,156	154	6,884	610	6,382	55	7,049	368	6,480
2017 -										
1	446	6,355	99	6,513	931	6,657	54	7,305	326	6,623
2	435	5,944	66	6,352	199	6,385	26	7,265	307	6,541
3	636	6,287	137	6,509	725	6,585	111	7,301	540	6,641
4	-	-	-	-	630	6,213	30	6,987	595	6,115
5	700	6,219	288	6,363	844	6,551	121	7,397	423	6,382
6	586	6,234	117	6,654	821	6,398	67	7,331	397	6,364
7	321	6,457	84	6,742	493	6,743	40	7,527	426	6,781
8	647	6,313	184	6,645	795	6,611	112	7,221	534	6,577
9	580	6,629	81	6,485	838	6,760	50	7,240	371	6,703
10	586	6,996	94	6,847	459	7,011	41	7,433	313	6,907
11	588	7,487	165	6,673	833	7,288	137	7,539	570	6,926
12	422	7,495	136	6,112	862	7,580	71	7,729	454	7,083
2018 -										
1	636	7,911	116	6,975	613	7,868	60	7,593	526	7,120
2	266	7,749	135	6,760	449	7,974	49	7,531	299	7,350
3	380	7,927	100	7,033	598	8,045	109	7,625	370	7,295
4	-	-	-	-	553	8,305	10	7,806	365	7,413
5	652	8,465	257	7,266	666	8,708	141	8,010	321	7,555
6	234	8,204	95	7,869	417	8,962	81	8,645	443	7,415
7	330	8,112	5	6,983	459	8,758	12	9,540	318	8,626

資料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau ,Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000㎡)
(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
2016 —									
1	172	94	54	3	37	44	18	26	34
2	173	85	53	3	30	51	24	28	37
3	190	99	56	3	39	52	23	29	39
4	214	117	53	3	61	58	24	34	39
5	204	117	52	3	61	51	20	31	36
6	213	114	53	3	58	54	25	29	45
7	181	89	50	4	35	50	23	28	41
8	160	81	48	3	30	45	21	24	35
9	171	87	49	3	35	49	22	27	35
10	187	98	50	3	45	52	23	29	37
11	190	104	52	3	49	50	23	27	36
12	188	106	50	3	53	47	21	25	35
2017 —									
1	161	86	49	4	33	43	19	24	32
2	171	85	52	4	29	49	24	25	37
3	187	96	56	4	36	52	23	29	39
4	187	99	53	4	42	51	24	27	37
5	182	100	51	4	45	50	22	27	33
6	205	113	53	4	55	54	25	29	38
7	182	102	56	5	41	48	22	25	32
8	162	88	51	4	33	43	20	24	31
9	168	87	53	5	29	48	22	26	33
10	194	107	54	4	49	50	24	26	36
11	199	111	55	4	52	51	23	28	37
12	199	113	55	5	53	49	23	26	37
2018 —									
1	169	99	53	4	43	41	20	22	28
2	175	100	52	3	44	46	22	24	30
3	180	93	55	3	36	50	25	25	36
4	193	107	54	4	49	51	25	26	35
5	188	101	51	4	46	48	23	25	39
6	195	103	50	4	49	54	24	30	38
7	169	88	49	4	35	47	22	24	35

資 料 : (一社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19) 丹後 - 長浜 - 西陣の絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
年 月 Year & Month								
暦 年 Calendar Year								
2006	18,504	93.4	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,955	70.9	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2014 — 1	226	94.6	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	236	97.5	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	240	96.8	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	244	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	249	101.2	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	252	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	238	90.5	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	195	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	207	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	222	85.7	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	212	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	214	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 — 1	191	84.5	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	182	77.1	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	192	80.0	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	208	85.2	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	182	73.1	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	217	86.1	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7	206	86.6	28,297	83.3	3,545	81.0	45,889	96.3
8	161	82.6	27,192	90.3	3,122	93.1	34,886	81.3
9	183	88.4	28,540	82.3	3,270	66.6	43,982	87.0
10	198	89.2	28,745	91.0	2,808	63.6	44,298	87.8
11	193	91.0	30,007	84.3	3,138	75.1	37,921	85.8
12	200	93.5	26,428	81.0	2,786	68.8	43,936	95.8
2016 — 1	172	90.1	22,012	92.6	2,707	74.7	39,031	82.0
2	172	94.5	28,277	81.3	3,482	89.4	44,351	102.0
3	190	99.0	25,517	81.9	3,284	73.4	49,298	99.8
4	214	102.9	29,177	93.2	3,167	76.9	47,090	92.7
5	204	112.1	24,051	80.7	3,228	104.0	43,230	99.7
6	213	98.2	26,552	85.0	3,393	84.6	43,263	103.3
7	181	87.9	26,799	94.7	3,169	89.4	36,125	78.7
8	161	100.0	21,611	79.5	3,302	105.8	32,724	93.8
9	171	93.4	26,624	93.3	3,175	97.1	36,533	83.1
10	187	94.4	26,625	92.6	3,356	119.5	38,158	86.1
11	190	98.4	24,839	82.8	3,244	103.4	39,561	104.3
12	188	94.0	28,187	106.7	2,556	91.7	38,780	88.3
2017 — 1	161	93.6	19,191	87.2	2,721	100.5	40,302	103.3
2	171	99.4	25,321	89.5	2,680	77.0	37,708	85.0
3	187	98.4	23,533	92.2	3,134	95.4	42,381	86.0
4	187	87.4	28,368	97.2	3,153	99.6	42,281	89.8
5	182	89.2	22,784	94.7	3,158	97.8	43,917	101.6
6	205	96.2	28,370	106.8	3,096	91.2	43,127	99.7
7	182	100.6	26,213	97.8	3,217	101.5	35,048	97.0
8	162	100.6	19,448	90.0	2,652	80.3	30,977	94.7
9	168	98.2	26,458	99.4	3,039	95.7	39,274	107.5
10	194	103.7	25,167	94.5	3,164	94.3	38,479	100.8
11	199	104.7	23,926	96.3	3,049	94.0	41,467	104.8
12	199	105.9	25,672	91.1	3,164	123.8	42,670	110.0
2018 — 1	169	105.0	17,326	90.3	3,005	110.4	35,097	87.1
2	175	102.3	25,063	99.0	2,912	108.7	36,007	95.5
3	180	96.3	23,373	99.3	3,289	104.9	40,384	95.3
4	193	103.2	25,842	91.1	3,243	102.9	41,773	98.8
5	188	103.3	20,935	91.9	3,345	105.9	37,871	86.2
6	195	95.1	27,319	96.3	2,820	91.1	35,102	81.4
7	169	92.9	25,225	96.2	3,376	104.9	32,378	92.4
8			19,518	100.4	2,621	98.8		

資料：絹織物生産数量は(一社)日本絹織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考：1. 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association

Remarks：Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況
Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,454	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2015	287,373	▲ 1.3	11,363	▲ 5.2	165	▲ 27.0	4,451	▲ 3.6	2,389	▲ 5.1	994	▲ 9.4
2016	282,188	▲ 1.8	10,878	▲ 4.3	128	▲ 22.8	4,225	▲ 5.1	2,282	▲ 4.5	1,006	1.2
2017	283,072	0.3	10,806	▲ 0.7	200	56.8	4,192	▲ 0.8	2,212	▲ 3.1	1,003	▲ 0.3
2016 - 1	280,973	▲ 3.1	12,332	▲ 4.3	42	▲ 77.7	5,401	▲ 8.8	2,374	1.8	1,137	3.2
2	269,774	1.6	8,435	▲ 4.0	63	▲ 46.2	3,755	▲ 3.3	1,495	▲ 12.6	669	9.7
3	300,889	▲ 5.3	11,815	▲ 10.4	129	24.0	5,509	▲ 10.8	1,997	▲ 14.7	752	▲ 7.2
4	298,520	▲ 0.7	11,452	▲ 8.3	130	▲ 16.1	4,232	▲ 11.1	2,486	▲ 1.8	866	▲ 1.7
5	281,827	▲ 1.6	13,167	5.3	317	213.9	4,653	11.0	3,057	2.8	1,151	2.1
6	261,452	▲ 2.7	10,717	▲ 0.2	194	25.2	3,523	▲ 2.2	2,717	▲ 1.2	1,001	1.4
7	278,067	▲ 0.9	10,995	▲ 4.8	149	3.5	3,781	▲ 8.6	2,724	▲ 6.8	1,223	10.9
8	276,338	▲ 5.1	8,024	▲ 10.8	100	▲ 44.1	2,693	▲ 6.8	1,923	▲ 6.6	876	▲ 10.3
9	267,119	▲ 2.6	8,129	▲ 12.3	86	▲ 70.1	2,919	▲ 11.8	1,791	▲ 14.0	752	▲ 6.6
10	281,961	▲ 0.2	11,581	1.0	63	▲ 64.8	4,658	4.0	2,493	1.4	1,021	1.3
11	270,848	▲ 0.9	11,860	▲ 4.3	69	▲ 80.3	4,748	▲ 7.2	2,186	▲ 4.6	1,309	12.8
12	318,488	0.1	12,025	▲ 0.6	189	759.1	4,822	▲ 2.3	2,147	▲ 3.0	1,317	▲ 2.9
2017 - 1	279,249	▲ 0.6	12,730	3.2	88	109.5	5,754	6.5	2,376	0.1	1,071	▲ 5.8
2	260,644	▲ 3.4	8,092	▲ 4.1	239	279.4	3,459	▲ 7.9	1,467	▲ 1.9	594	▲ 11.2
3	297,942	▲ 1.0	12,149	2.8	492	281.4	5,711	3.7	1,908	▲ 4.5	733	▲ 2.5
4	295,929	▲ 0.9	11,639	1.6	131	0.8	4,174	▲ 1.4	2,567	3.3	904	4.4
5	283,056	0.4	11,451	▲ 13.0	142	▲ 55.2	3,933	▲ 15.5	2,670	▲ 12.7	1,079	▲ 6.3
6	268,802	2.8	9,897	▲ 7.7	275	41.8	3,277	▲ 7.0	2,361	▲ 13.1	929	▲ 7.2
7	279,197	0.4	11,687	6.3	588	294.6	3,957	4.7	2,740	0.6	1,249	2.1
8	280,320	1.4	7,924	▲ 1.2	51	▲ 49.0	2,525	▲ 6.2	1,814	▲ 5.7	816	▲ 6.8
9	268,802	0.6	8,315	2.3	156	81.4	2,942	0.8	1,783	▲ 0.4	792	5.3
10	282,872	0.3	11,306	▲ 2.4	19	▲ 69.8	4,656	▲ 0.0	2,327	▲ 6.7	1,042	2.1
11	277,361	2.4	12,263	3.4	122	76.8	4,880	2.8	2,363	8.1	1,378	5.3
12	322,157	1.2	12,219	1.6	97	▲ 48.7	5,038	4.5	2,173	1.2	1,447	9.9
2018 - 1	289,703	3.7	12,400	▲ 2.6	120	36.4	5,578	▲ 3.1	2,161	▲ 9.0	1,036	▲ 3.3
2	265,614	1.9	8,240	1.8	149	▲ 37.7	3,660	5.8	1,435	▲ 2.2	735	23.7
3	301,230	1.1	12,867	5.9	56	▲ 88.6	6,165	7.9	2,085	9.3	734	0.1
4	294,439	▲ 0.5	11,417	▲ 1.9	236	80.2	3,929	▲ 5.9	2,423	▲ 5.6	986	9.1
5	281,307	▲ 0.6	10,972	▲ 4.2	137	▲ 3.5	3,874	▲ 1.5	2,451	▲ 8.2	1,057	▲ 2.0
6	267,641	▲ 0.4	10,217	3.2	401	45.8	3,361	2.6	2,382	0.9	899	▲ 3.2
7	283,387	5.4	10,454	5.6	91	▲ 66.9	3,630	10.8	2,558	8.3	1,151	23.9

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

—資料・海外—

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2010年	2011年	2012年
		トン	トン	トン
日本	Japan	265	220	202
中国	China	621,000	661,000	655,000
インド	India	131,924	139,871	144,434
ウズベキスタン	Uzbekistan	23,942	24,667	25,012
イラン	Iran	9,780	10,208	10,637
タイ	Thailand	4,650	4,580	4,580
ブラジル	Brazil	4,439	3,037	2,620
ベトナム	Vietnam	2,570	2,500	2,500
北朝鮮	North Korea	1,016	900	900
トルコ	Turkey	126	151	134
ブルガリア	Bulgaria	75	48	73
インドネシア	Indonesia	161	143	143
シリア	Syria	3.0	5	6.0
主要国の計	Total	799,951	847,330	846,241

区 分		2013年	2014年	2015年
		トン	トン	トン
日本	Japan	168	149	135
中国	China	643,000	641,000	628,000
インド	India	142,487	164,538	157,524
ウズベキスタン	Uzbekistan	26,455	25,000	27,237
イラン	Iran	11,065	11,493	12,538
タイ	Thailand	4,755	4,839	4,881
ブラジル	Brazil	2,608	2,563	2,544
ベトナム	Vietnam	2,500	2,495	2,515
北朝鮮	North Korea	900	857	937
トルコ	Turkey	121	80	75
ブルガリア	Bulgaria	73	65	65
インドネシア	Indonesia	114	71	57
シリア	Syria	5.0	5.0	3.0
主要国の計	Total	834,251	853,155	836,511

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2010年		2011年		2012年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	53	882	44	731	30	506
中国	China	96,000	1,600,000	104,000	1,733,333	126,000	2,100,000
インド	India	16,360	272,667	18,272	304,533	18,715	311,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	940	15,667	940	15,667
タイ	Thailand	665	11,083	655	10,917	655	10,917
ブラジル	Brazil	770	12,833	558	9,300	440	7,333
ベトナム	Vietnam	460	7,667	448	7,467	448	7,467
イラン	Iran	75	1,250	120	2,000	123	2,050
北朝鮮	North Korea	102	1,700	90	1,500	90	1,500
トルコ	Turkey	18	300	22	367	19	317
インドネシア	Indonesia	20	333	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.2	153	5.9	98	9.0	150
シリア	Syria	0.6	10	0.5	8	0.5	8
主要国の計	Total	115,473	1,924,545	125,175	2,086,254	147,490	2,458,164

区 分		2013年		2014年		2015年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	25	409	27	446	23	378
中国	China	125,000	2,083,333	125,000	2,083,333	122,000	2,033,333
インド	India	19,476	324,600	21,390	356,500	20,474	341,233
ウズベキスタン	Uzbekistan	980	16,333	1,100	18,333	1,200	20,000
タイ	Thailand	680	11,333	692	11,533	698	11,633
ブラジル	Brazil	440	7,333	433	7,217	463	7,717
ベトナム	Vietnam	448	7,467	447	7,450	450	7,500
イラン	Iran	123	2,050	110	1,833	120	2,000
北朝鮮	North Korea	90	1,500	86	1,433	94	1,567
トルコ	Turkey	17	283	11	183	11	183
インドネシア	Indonesia	16	267	10	167	8	133
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	8	133	8	133
シリア	Syria	0.7	12	0.5	8	0.3	5
主要国の計	Total	147,305	2,455,071	149,315	2,488,571	145,549	2,425,816

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)					生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)				
		2011	2012	2013	2014	2015	2011	2012	2013	2014	2015
山 西	Shanxi	6,675	6,001	4,945	4,872	2,935	64	55	65	61	81
河 北	Hebei										6
遼 寧	Liaoning						4,184	2,463	2,310	4,504	2,948
江 蘇	Jiangsu	65,618	66,537	54,501	52,645	49,100	13,003	19,493	20,949	29,738	27,153
浙 江	Zhejiang	50,885	46,728	45,256	38,442	35,600	5,748	6,688	14,293	15,505	16,060
安 徽	Anhui	25,185	21,601	18,286	16,488	17,000	5,040	8,139	8,909	9,101	8,057
江 西	Jiangxi	9,179	9,216	9,121	9,072	8,800		3,021	4,653	6,225	6,680
山 東	Shandong	20,000	22,000	21,200	20,800	19,200	3,613	5,452	4,949	3,414	2,396
河 南	Henan	10,023	10,003	9,608	7,984	5,100			1,972	2,160	1,169
湖 北	Hubei	17,300	16,850	16,550	16,450	7,700	437	572	1,007	1,683	1,663
湖 南	Hunan	2,596	2,336	2,595	2,988	3,000					
広 東	Guangdong	75,066	45,000	36,523	35,659	35,600	1,183	1,548	1,726	2,312	2,724
広 西	Guangxi	231,005	256,000	271,000	279,500	286,500	8,312	27,834	35,425	40,645	46,496
重 慶	Chongqing	17,144	16,716	15,711	15,733	15,000	3,811	3,402	3,653	4,730	4,632
四 川	Sichuan	74,008	74,600	76,000	77,000	76,000	27,742	27,268	29,065	38,096	40,203
貴 州	Guizhou	2,410	2,226	2,226	2,161	1,530	182	128	234	291	594
雲 南	Yunnan	40,000	43,000	44,648	46,016	62,400	2,108	2,777	2,814	3,433	4,379
陝 西	Shaanxi	17,999	11,080	12,014	12,500	12,000	4,391	4,642	5,067	5,386	6,872
甘 肅	Gansu	373	385	364	348	310					
寧 夏	Ningxia	575	610	826	578	0					
新 疆	Xinjiang	100	150	100	100	130					
内 蒙 古	Inner Mongolia										
合 計	Total	667,240	654,990	643,024	641,006	637,905	79,817	113,478	137,090	167,284	172,114

資料：中国絲綢年鑑による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China

(単位：万トン)(Unit: 10,000ton)

地域	Area	2000年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.3
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning										0.0	0.0	0.0	0.0
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai													
江 蘇	Jiangsu	9.0	10.6	12.3	11.2	9.9	7.9	7.9	7.1	6.8	5.9	5.7	5.0	4.0
浙 江	Zhejiang	9.5	8.5	9.6	9.6	8.2	6.8	6.4	6.5	6.1	5.5	4.7	4.0	3.3
安 徽	Anhui	2.5	3.1	3.6	3.9	3.8	2.9	3.3	3.2	3.3	3.2	3.1	3.0	2.9
福 建	Fujian										0.0			
江 西	Jiangxi	0.3	0.9	1.1	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
山 東	Shandong	5.3	6.3	7.0	6.8	6.1	5.2	4.2	3.6	3.3	3.1	2.5	2.2	2.0
河 南	Henan	1.3	1.5	1.6	1.8	2.2	2.2	2.1	1.9	1.9	1.8	1.7	1.8	1.6
湖 北	Hubei	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8	0.6	0.7	0.6
湖 南	Hunan										0.0	0.1	0.1	0.1
広 東	Guangdong	3.1	6.5	7.5	8.4	8.4	8.6	9.1	9.6	9.7	10.2	10.5	11.0	11.3
広 西	Guangxi	3.0	14.8	19.7	23.3	22.3	22.5	26.5	29.6	31.6	32.3	34.0	36.1	37.8
海 南	Hainan									0.1	0.0	0.1	0.1	0.1
重 慶	Chongqing	3.0	3.1	2.7	2.9	2.4	1.9	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8	1.8	1.6
四 川	Sichuan	8.7	9.8	9.8	10.9	10.6	10.7	11.1	11.2	11.4	11.3	11.3	11.2	11.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1			0.0	0.0	0.0	0.1
雲 南	Yunnan	0.7	1.9	2.4	3.0	2.9	2.7	2.5	2.9	2.6	2.8	3.2	3.1	3.5
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	2.3	2.6	3.0	3.3	2.6	2.5	3.5	1.9	1.3	1.2	1.2	0.9
甘 肅	Gansu										0.0	0.0	0.0	0.0
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia													
新 疆	Xinjiang	0.3												
合 計	Total	50.1	71.3	82.0	87.9	83.1	76.1	80.0	83.6	83.1	81.7	81.9	82.4	81.7

資料：中国国家統計局「中国統計年鑑」

Source: "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2018年5月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		140.60 ~ 156.40	2,390 ~ 2,659
2	玉繭(double cocoon)		123.80 ~ 138.60	2,105 ~ 2,356
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	112.80 ~ 126.50	1,918 ~ 2,151
4	ビス(bisu)		119.80 ~ 135.40	2,037 ~ 2,302
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	455.02 ~ 479.78	7,735 ~ 8,156
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	461.00 ~ 486.00	7,837 ~ 8,262
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	478.20 ~ 489.50	8,129 ~ 8,322
8	玉糸(doupion silk)	110d	450.20 ~ 465.00	7,653 ~ 7,905
9	土糸(native silk)	110d	450.00 ~ 464.00	7,650 ~ 7,888
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	44.72 ~ 46.60	760 ~ 792
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	35.60 ~ 43.50	605 ~ 740
12	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	63.72 ~ 71.84	1,083 ~ 1,221
13	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	58.60 ~ 61.60	996 ~ 1,047
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	47.76 ~ 52.40	812 ~ 891

注:1元=17円

2018年6月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	136.50 ~ 158.00	2,321 ~ 2,686
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	162.00 ~ 174.25	2,754 ~ 2,962
3	玉繭(double cocoon)		124.00 ~ 138.40	2,108 ~ 2,353
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	111.00 ~ 123.00	1,887 ~ 2,091
5	ビス(bisu)		118.00 ~ 134.00	2,006 ~ 2,278
6	生糸(raw silk)	21d、工場検査	460.00 ~ 470.00	7,820 ~ 7,990
7	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	465.00 ~ 475.00	7,905 ~ 8,075
8	生糸(raw silk)	42d、工場検査	485.00 ~ 495.00	8,245 ~ 8,415
9	玉糸(doupion silk)	110d	446.00 ~ 462.00	7,582 ~ 7,854
10	土糸(native silk)	110d	447.00 ~ 461.00	7,599 ~ 7,837
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	44.00 ~ 42.00	748 ~ 714
12	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	35.00 ~ 43.00	595 ~ 731
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	63.00 ~ 71.00	1,071 ~ 1,207
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	58.00 ~ 61.00	986 ~ 1,037
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	47.00 ~ 52.00	799 ~ 884

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

注:1元=17円

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng, Jiaxing)

2018年7月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	126.75 ~ 147.00	2,155 ~ 2,499
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	151.75 ~ 164.25	2,580 ~ 2,792
3	玉繭(double cocoon)		121.25 ~ 136.05	2,061 ~ 2,313
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	108.50 ~ 119.75	1,845 ~ 2,036
5	ビス(bisu)		115.50 ~ 131.50	1,964 ~ 2,236
6	生糸(raw silk)	21d、工場検査	433.75 ~ 447.50	7,374 ~ 7,608
7	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	440.00 ~ 452.50	7,480 ~ 7,693
8	生糸(raw silk)	42d、工場検査	452.50 ~ 473.75	7,693 ~ 8,054
9	玉糸(doupion silk)	110d	430.50 ~ 446.50	7,319 ~ 7,591
10	土糸(native silk)	110d	432.75 ~ 445.25	7,357 ~ 7,569
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	43.25 ~ 42.25	735 ~ 718
12	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	34.75 ~ 42.75	591 ~ 727
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.75 ~ 70.00	1,067 ~ 1,190
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	57.75 ~ 60.75	982 ~ 1033
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	46.75 ~ 51.75	795 ~ 880

注:1元=17円

2018年8月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	111.60 ~ 126.60	1,786 ~ 2,026
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	131.60 ~ 149.60	2,106 ~ 2,394
3	玉繭(double cocoon)		106.60 ~ 124.36	1,706 ~ 1,990
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	110.60 ~ 113.40	1,770 ~ 1,814
5	ビス(bisu)		107.60 ~ 122.00	1,722 ~ 1,952
6	生糸(raw silk)	21d、工場検査	405.80 ~ 423.20	6,493 ~ 6,771
7	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	411.80 ~ 427.80	6,589 ~ 6,845
8	生糸(raw silk)	42d、工場検査	427.40 ~ 452.40	6,838 ~ 7,238
9	玉糸(doupion silk)	110d	417.00 ~ 433.00	6,672 ~ 6,928
10	土糸(native silk)	110d	420.00 ~ 431.00	6,720 ~ 6,896
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	40.20 ~ 42.20	643 ~ 675
12	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	33.20 ~ 41.20	531 ~ 659
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.20 ~ 68.20	979 ~ 1,091
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	56.20 ~ 59.20	899 ~ 947
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	45.20 ~ 50.20	723 ~ 803

注:1元=16円

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,055.8	6,172.6	1,210.6	672.6	119.0	117.4	115.6	142.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	103.8	106.2	101.1	124.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	99.4	94.7	82.2	155.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	106.5	105.1	94.4	120.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	107.9	106.2	95.5	120.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	111.4	109.9	94.5	123.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	111.7	107.3	96.1	130.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	112.4	108.5	100.4	125.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	114.9	111.4	101.0	125.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	117.1	111.4	103.4	130.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	117.6	113.3	108.5	126.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	121.5	119.9	112.6	124.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	119.7	116.8	108.6	125.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	114.2	112.2	105.8	117.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	117.3	113.8	112.6	122.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	126.8	116.3	121.2	139.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	118.3	113.8	114.6	122.9
2013年	93,064.3	33,359.6	2,195.8	57,508.9	131.2	101.2	110.3	159.9
2014年	102,817.2	36,106.6	2,302.7	64,408.0	110.5	108.2	104.9	112.0
2015年	112,007.8	40,387.9	2,239.4	69,380.5	108.9	111.9	97.3	107.7
2016年	120,074.8	44,462.9	2,268.6	73,343.3	107.2	110.1	101.3	105.7

資料： 中国統計年鑑 (2017)

Source: China Statistical Yearbook 2017

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)							
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	名目賃金Average Wage				実質賃金Average Real Wage			
					全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	118.9	117.3	121.1	119.9	101.8	100.4	103.7	102.6
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	107.8	107.6	104.7	106.7	104.5	104.4	101.6	103.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	115.5	113.5	117.7	101.6	116.2	114.2	118.4	102.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	111.7	111.4	108.4	109.8	113.2	112.9	109.8	111.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	112.2	111.8	108.4	110.8	111.3	110.9	107.5	109.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	116.1	117.0	109.8	110.7	115.3	116.2	109.0	109.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	114.2	115.0	111.5	108.4	115.4	116.2	112.6	109.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	112.9	113.0	113.0	110.1	111.9	112.0	112.0	109.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	114.0	114.5	112.7	111.3	110.3	110.9	109.1	107.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	114.3	115.4	114.9	111.2	112.5	113.6	113.1	109.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	114.6	114.4	115.1	114.4	112.9	112.7	113.4	112.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	118.5	120.2	120.0	115.6	113.4	115.0	114.8	110.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	116.9	116.0	117.2	117.6	110.7	109.8	111.0	111.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	111.6	112.7	113.8	109.8	112.6	113.7	114.8	110.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	113.3	112.4	116.5	114.2	109.8	108.9	112.9	110.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	114.4	113.4	119.9	115.4	108.6	107.7	113.9	109.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	111.9	111.2	117.3	112.2	109.0	108.3	114.3	109.2
2013年	51,483	52,657	38,905	51,453	110.1	108.9	115.2	111.0	107.3	106.1	112.2	108.2
2014年	56,360	57,296	42,742	56,485	109.5	108.8	109.9	109.8	107.2	106.6	107.6	107.5
2015年	62,029	65,296	46,607	60,906	110.1	114.0	109.0	107.8	108.5	112.3	107.4	106.2
2016年	67,569	72,538	50,527	65,531	108.9	111.1	108.4	107.6	106.7	108.8	106.2	105.4

資料：中国統計年鑑2017

Source: China Statistical Yearbook 2017

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urb

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	8,207	16,717	22,687	25,820	28,365	31,947	33,612
採掘業 Mining	20,449	44,196	56,946	60,138	61,677	59,404	60,544
製造業 Manufacturing	15,934	30,916	41,650	46,431	51,369	55,324	59,470
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	24,750	47,309	58,202	67,085	73,339	78,886	83,863
建築業 Construction	14,112	27,529	36,483	42,072	45,804	48,886	52,082
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	20,911	40,466	53,391	57,993	63,416	68,822	73,650
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	38,799	64,436	80,510	90,915	100,845	112,042	122,478
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	33,635	46,340	50,308	55,838	60,328	65,061
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	23,382	31,267	34,044	37,264	40,806	43,382
金融業 Financial Intermediation	29,229	70,146	89,743	99,653	108,273	114,777	117,418
不動産業 Real Estate	20,253	35,870	46,764	51,048	55,568	60,244	65,497
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	39,566	53,162	62,538	67,131	72,489	76,782
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	27,155	56,376	69,254	76,602	82,259	89,410	96,638
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	14,322	25,544	32,343	36,123	39,198	43,528	47,750
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	28,206	35,135	38,429	41,882	44,802	47,577
教育 Education	18,259	38,968	47,734	51,950	56,580	66,592	74,498
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	20,808	40,232	52,564	57,979	63,267	71,624	80,026
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	22,670	41,428	53,558	59,336	64,375	72,764	79,875
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	20,234	38,242	46,074	49,259	53,110	62,323	70,959
合計 Total	18,200	36,539	46,769	51,483	56,360	62,029	67,569

(出所)中国統計年鑑2017

Source: China Statistical Yearbook 2017

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
製造業 Manufactur	214,472	401,908	541,450	835,758	886,629	1,074,945	974,119
合計 Total	244,972	475,007	607,997	926,694	972,774	1,205,223	1,106,780
年別円yen／人民元yuanレート	13.46	12.97	13.00	18.00	17.26	19.43	16.38

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2016年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region			年平均賃金 (元)(yuan)	円換算 (円)(yen)	前年比(%) 2016/2015	全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	119,928	1,964,421	107.7	177.49
天	津	Tianjin	86,305	1,413,676	107.8	127.73
河	北	Hebei	55,334	906,371	108.7	81.89
山	西	Shanxi	53,705	879,688	103.7	79.48
内	蒙	Inner Mongolia	61,067	1,000,277	106.9	90.38
遼	寧	Liaoning	56,015	917,526	107.0	82.90
吉	林	Jilin	56,098	918,885	108.8	83.02
黒	龍	Heilongjiang	52,435	858,885	107.3	77.60
上	海	Shanghai	119,935	1,964,535	109.9	177.50
江	蘇	Jiangsu	71,574	1,172,382	108.1	105.93
浙	江	Zhejiang	73,325	1,201,064	110.0	108.52
安	徽	Anhui	59,102	968,091	107.2	87.47
福	建	Fujian	61,973	1,015,118	107.5	91.72
江	西	Jiangxi	56,136	919,508	110.2	83.08
山	東	Shandong	62,539	1,024,389	109.2	92.56
河	南	Henan	49,505	810,892	109.0	73.27
湖	北	Hubei	59,831	980,032	110.1	88.55
湖	南	Hunan	58,241	953,988	111.2	86.19
広	東	Guangdong	72,326	1,184,700	109.9	107.04
広	西	Guangxi	57,876	948,009	109.2	85.65
海	南	Hainan	61,663	1,010,040	107.1	91.26
重	慶	Chongqing	65,545	1,073,627	108.3	97.00
四	川	Sichuan	63,926	1,047,108	108.5	94.61
貴	州	Guizhou	66,279	1,085,650	111.0	98.09
雲	南	Yunnan	60,450	990,171	115.0	89.46
西	蔵	Tibet	103,232	1,690,940	105.5	152.78
陝	西	Shaanxi	59,637	976,854	108.4	88.26
甘	肅	Gansu	57,575	943,079	108.8	85.21
青	海	Qinghai	66,589	1,090,728	109.0	98.55
寧	夏	Ningxia	65,570	1,074,037	108.6	97.04
新	疆	Xinjiang	63,739	1,044,045	106.0	94.33
全	国	Average	67,569	1,106,780	108.9	100.00

(出所) 中国統計年鑑2017 Source: China Statistical Yearbook 2017

(注) 1元=16.38円 Note: 1yuan=16.38yen

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2018年10月号 NO.59 平成30年10月1日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず